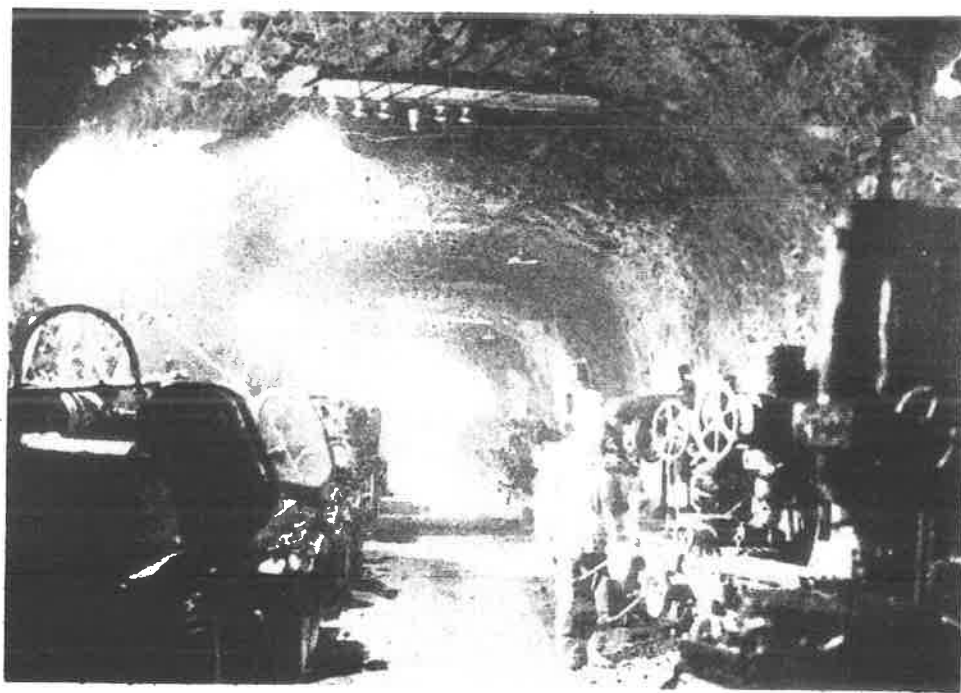


第7回

朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働

を考える全国交流集会 資料集

1996. 7. 27~28. 岐阜



もくじ

よびかけ	1
実行委員長あいさつ	2
集会日程	3
岐阜市文化センター見取り図	4
岐阜から瑞浪への地図	5
基調講演：「外務省報告書」公開の意味	6
特別アピール：沈美子さん(大韓民国京畿道城南市在住)	10
各地からの報告	12
「永松鉦山(山形県大蔵村)に強制連行された人たちを韓国に訪ねて」	
「戦後50年記念事業、碑文に『加害』明らかに」	
「新潟県における強制連行の調査 ― 現状と課題」	
第1分科会：旧日本軍による性奴隷問題	16
第2分科会：戦争被害と教育	18
「長野大本営と中高生」	
「強制連行調査の教材化」	
第3分科会：調査保存	22
「奈良県立里鉦山での聞き取り調査」	
「中部地方での朝鮮人強制連行」	
「もうひとつの歴史館・松代」	
第4分科会：瑞浪地下壕フィールドワーク	28
プレ企画：姜さん(松代の地下壕工事に従事、岐阜市在住)のお話	30
特別企画：映画「ヌナムの家」	34
市民講座：歌とトーク「歌でつなぐアジアの心」	36
歌：佐藤優美子さん トーク：新美隆さん、森正孝さん	
賛同団体・個人 紹介	41

第7回 朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働を考える全国交流集会 資料集

発行日 1996年7月27日

編集・発行 第7回 朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働を考える
全国交流集会 実行委員会

連絡先 中津川市駒場1620-93 下嶋義輔
Tel&Fax 0573-66-7434

よびかけ

日本の侵略戦争が終わって50年、昨年の8月以前の戦争責任・戦後補償をめぐる熱い議論は8月15日を境に冷めてしまいました。戦後50年の「国会決議」も、「女性のためのアジア平和基金」にしても、日本政府は戦争責任を回避し、いまだ強制連行された人たちや「慰安婦」にされた人たちに謝罪や個人補償をしようとはしていません。

そのような中で第1回目の全国交流集会のフィールドワークの行なわれた岐阜県で「第7回朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会」を行うことになりました。

岐阜県は強制連行・強制労働の種類と数の多さ、規模の大きさでは全国でも有数のものとなっています。標高3026mの乗鞍岳、現在は観光道路として使われている乗鞍スカイライン。西村京太郎のトラベルミステリーで有名になった東海道下り増線工事。戦後になってやっと完成した丸山ダムや、海面より下を掘っている神岡鉱山、そして、第1回のフィールドワークの地、久々利・明世をはじめとした岐阜県下10数ヶ所ある地下工場跡。いかに多くの朝鮮人・中国人が強制連行・強制労働されていたかがうかがえます。

しかし、岐阜県内における強制連行などの問題をめぐる運動や調査・研究は数少なく非常に限られたものでしたし、県をはじめとした行政も非協力的で、歴史の暗闇はいまだに明らかになっていません。戦後50年が形だけのものとなってしまうように今一度、この戦争責任・戦後補償をめぐる問題を原点に立ち返って考えていきたいと思います。

ダムの底、地下壕や坑道の奥、そして山の頂き、線路の枕木の下…岐阜県下のいたる所にこの国を告発する声が隠されています。その声を掘り起こすために一人でも多くの方の参加を呼びかけます。

1996年7月

第7回朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会

全国の仲間を迎えて

この全国交流集会も今年で七回目を迎えることになりました。私たちは昨年から一年間それぞれが挙げた新たな調査結果や運動の成果を持ち寄り、我々の現在の到達点と不十分な点を確認し、来年に向けての運動の方向を定め、お互いの運動と人の交流を深め元氣をもらって新しい気持ちでそれぞれの地で運動を進めて行くためにここに集いました。

昨年は日本敗戦後五十年、ちょうど半世紀という区切りの良い年ということもあって、多くの人々が日本の戦争責任の問題に、決着とはいかずともなんとか正しいけじめをつける糸口でも得ようと努力してきました。しかし残念ながらその努力は実を結ばずに終わってしまいました。私たちはこれから何年かかろうとこの重い問題にけじめをつけなければなりません。私たちの運動もそのための一つの過程であると思います。それに対して日本政府の対応は、いわゆる従軍慰安婦**対策**としての「アジア女性基金」に見られるような、許すべからざるものであることはご存じの通りです。同じ枢軸国のドイツは曲がりなりにも戦後補償を行い、アメリカでさえ太平洋戦争中日系市民を強制的に隔離収容したことに対して、大統領の謝罪文付で少なからざる額の個人補償を行っているというのに。

ヘルツォーク・ドイツ大統領は今年の一月三日に大統領布告を出し、一月二十七日を国家社会主義（ナチ）の犠牲者の追悼記念日とすることを宣言し、その追悼記念式典の演説の中で「私たちには集団責任があります。心に刻むことを止めてはならない」と述べています。戦後五十年、戦争に直接責任を負うべき人々は高齢となり、市民の大部分が直接には戦争を知らない世代となってきました。しかし、集団責任としての日本の戦争責任は決してなくなりません。私たちは若い世代に、過去に日本がアジアの人々にどんなに酷い仕打ちをし苦しめてきたのか、正しく伝え、政府に国として戦争責任をはっきり認めさせ、正当な補償を行わせることを追及して行かねばなりません。それなくしては日本は再び過去の過ちを繰り返すことになるでしょう。その意味で私たちの運動は、私たちと私たちの子や孫たちに二度と戦争の惨禍を受けさせないようにする、私たち自身のための運動でもあると思います。

今回は主催者として集会全体の運営のために、一週間にわたる強制連行展を創り上げる事業と並行して、私ども数少ない実行委員一同全力を上げて努力してきました。いろいろ行き届かぬことが多いことと思いますが、この集会を稔り多いものにするために皆さんのご協力をお願いして、実行委員全員を代表しての歓迎のあいさつといたします。

1996年7月27日

第7回全国交流集会実行委員長 寺 尾 光 身

第7回 朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働 を考える全国交流集会 岐阜大会

7月27日(土)

全体集会

13:00~16:30

岐阜市文化センター2F小劇場

基調講演：「外務省報告書公開の意味」田中宏一橋大学教授

各地からの報告：14:30~16:30

- ①広島県 内海 隆男さん
- ②山形県 佐藤 光康さん
- ③大阪府 塚崎 昌之さん
- ④新潟県 木村 昭雄さん

特別アピール：沈美子(韓国城南市)さん

集会アピール

分科会

18:00~21:00

- | | | |
|-------|-----------------|-------|
| 第1分科会 | 旧日本軍による性奴隷問題 | 4F和室 |
| 第2分科会 | 戦争被害と教育 | 3F会議室 |
| ①長野県 | 峯村 勉さん | |
| ②広島県 | 正木 峯夫さん | |
| 第3分科会 | 調査保存 | 4F茶室 |
| ①奈良県 | 川瀬 俊治さん | |
| ②静岡県 | 竹内 康人さん | |
| ③千葉県 | 黒崎 裕子さん | |
| 第4分科会 | フィールドワーク；瑞浪市へ移動 | |

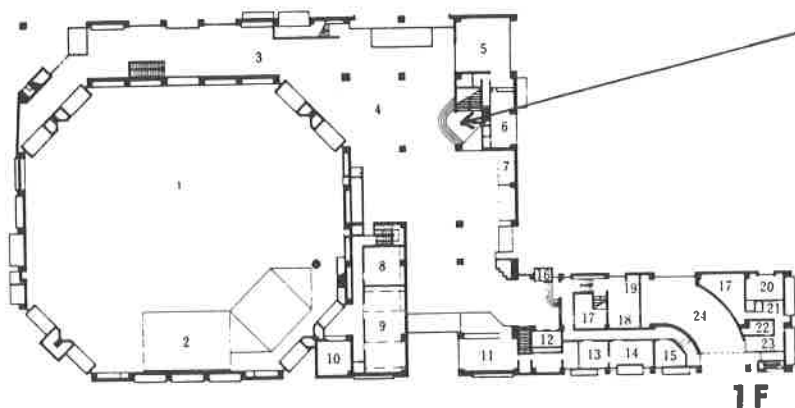
市民講座「歌でつなぐアジアの心」(18:00~20:30) 小劇場

交流会 於：円徳寺

平面図

岐阜市文化センター

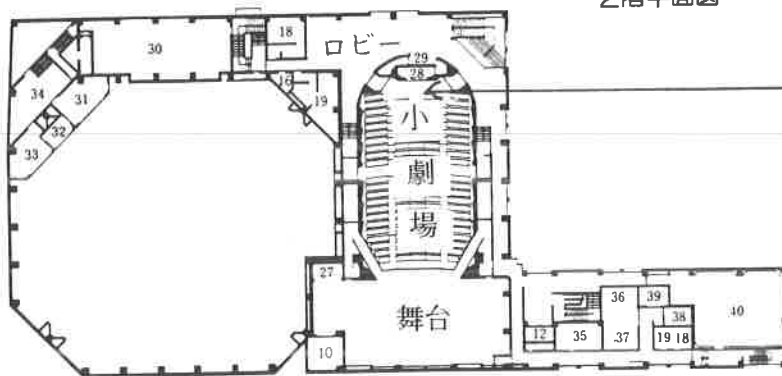
1階平面図



全体会議・市民講座 入口
階段を上って、小劇場へ

1F

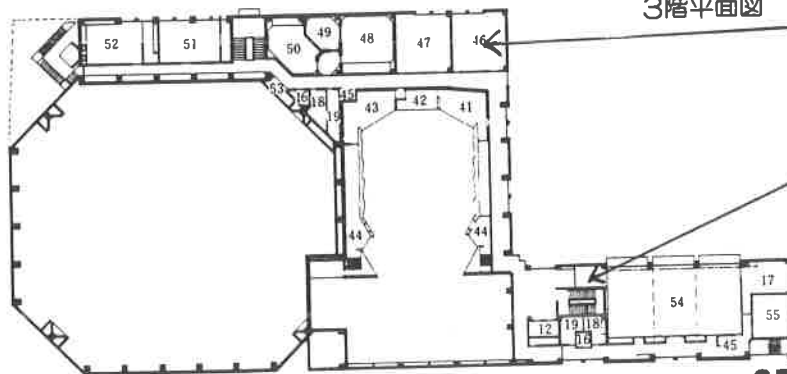
2階平面図



13:00~ 全体会
18:00~ 市民講座

2F

3階平面図

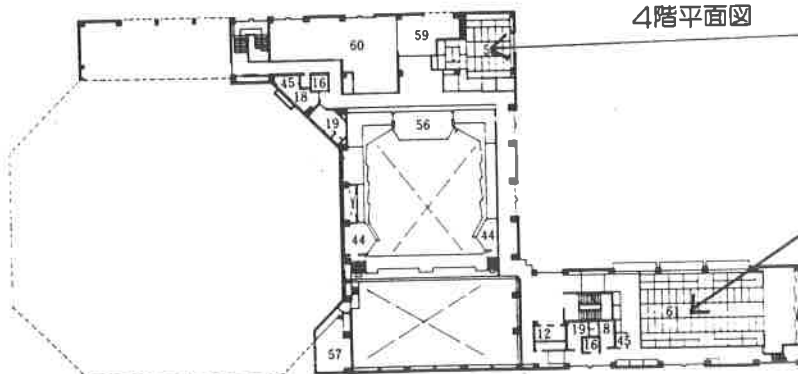


18:00~ 第2分科会
3F会議室

7/22~28 強制連行展
3F展示室

3F

4階平面図



18:00~ 第3分科会
4F茶室

18:00~ 第1分科会
4F和室

4F

岐阜から瑞浪へ

岐阜から瑞浪へ：
東海道線名古屋で
中央線に乗り換え、瑞浪下車

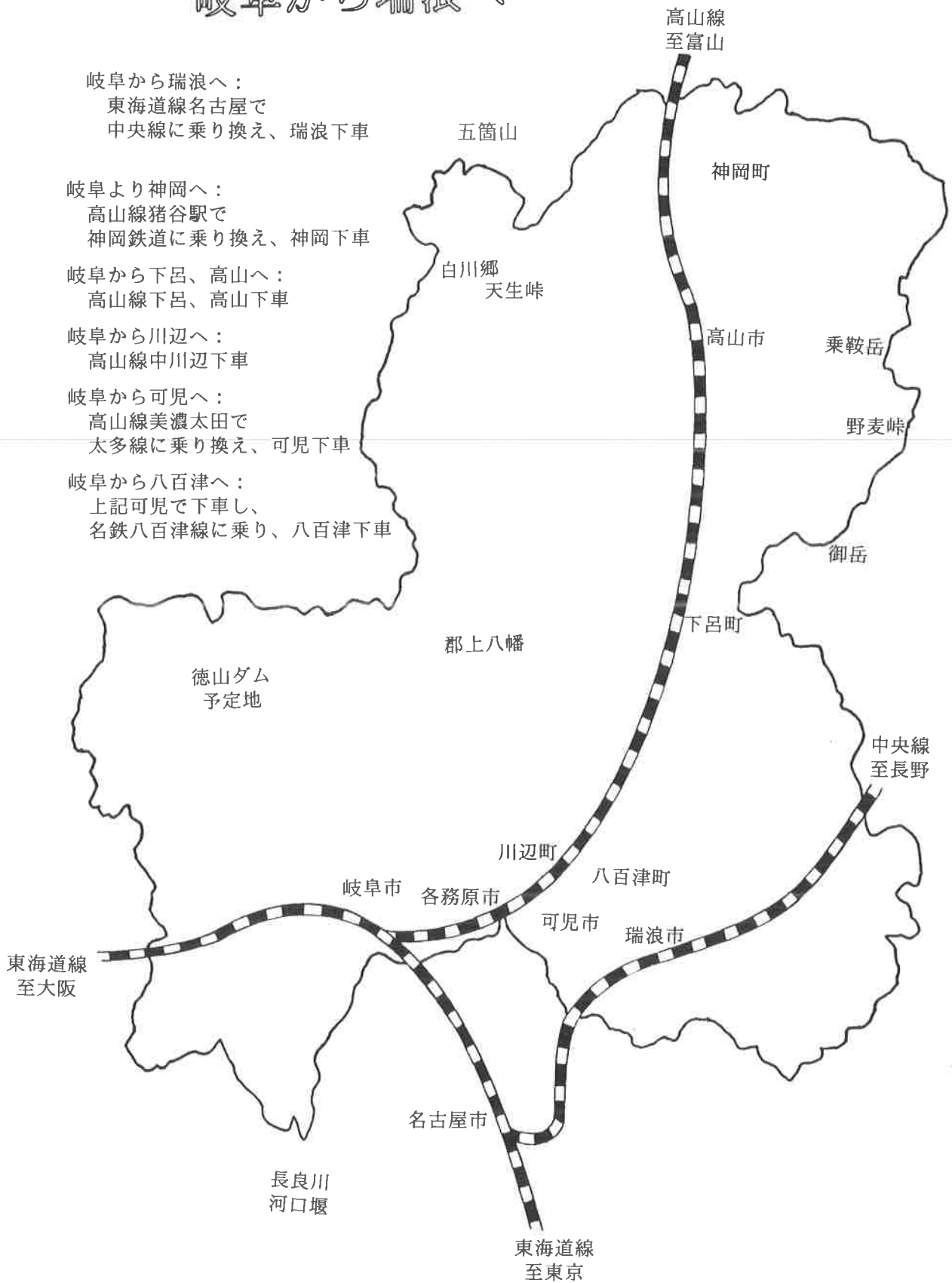
岐阜より神岡へ：
高山線猪谷駅で
神岡鉄道に乗り換え、神岡下車

岐阜から下呂、高山へ：
高山線下呂、高山下車

岐阜から川辺へ：
高山線中川辺下車

岐阜から可児へ：
高山線美濃太田で
太多線に乗り換え、可児下車

岐阜から八百津へ：
上記可児で下車し、
名鉄八百津線に乗り、八百津下車



- 1、なぜ「報告書」が作られたか。
上海の出兵一中国で折衝
外務省に電報
外務省の決裁書（1946年2月12日付け）には、「近く来朝を予想せられる中国側調査団への説明に備える目的を以て・・・」とある。
その構成は、要旨（30頁+38頁），別冊（事業場概要 21頁），第1分冊（第1部、移入、配置及び送還事情 219頁），第2分冊（第2部 死亡・疾病・傷害及び関係事情 233頁），第3分冊（第3部 就労事情、紛事及び就労成果 135頁）で、全5分冊 総計676頁に及ぶ。さらに、135事業場の「華人労務者就労顛末報告」及びその調査を委託された16名の調査員が各地に派遣されたが、その「現地調査報告覚書」がかなり残っている。
- 2、なぜ、「幻の報告書」となったか。
外務省アジア局長は、国会で、国会で、かつて「昭和21（1946）年3月に、外務省管理局において、そういう調査の作成をいたしたそうでございますが、そういう調書がございますと、戦犯問題の資料に使われて非常に多数の人に迷惑をかけるのではないということで、全部焼却いたしたそうであります」と答弁（1960年5月3日、衆院 日米安保条約特別委）。
- 3、「報告書」の功罪は？
 - a、 中国人に関する基本的データが残る（例えば、35の企業名、135の事業場名、約4万人の名簿、年齢、出身地など）。朝鮮人と比べると、その違いは歴然。
 - b、 最大の問題点は「華人労務者」とすることによって、戦争犯罪（俘虜虐待など）の隠蔽をはかったこと。死亡診断書も偽造も確認されている。
- 4、それは侵略戦争と不可分だった
 - a、 中国に対する15年戦争では、一度も宣戦布告がなされず、つねに「事変」の積み重ねの形式をとった。日清戦争、日露戦争、第1次大戦では、宣戦布告がなされ、そこでは「国際法遵守」もうたわれた（第2次大戦では、宣戦布告はされたが、国際法遵守は欠落）
 - b、 中国人の強制連行・強制労働は、15年戦争以前にも、中国東北地区の満鉄を初めとする日系企業で行われ、そこでは指紋押捺も行われた。長い前史がある。
- 5、戦後、企業は国家補償金を獲得！
中国人や朝鮮人を使役したことによって「損害」を蒙ったとして、企業は戦後になって国家補償金を獲得している（中国人について、外務省報告書には5,672万余円とある）。
日本建設工業会『華鮮労務対策委、活動記録』（1947年6月）によると、同会は中国人、朝鮮人の分として、4,595万円を獲得している。
外務省報告書の国家補償金のうち、土建業の部分は2,842万余円となっている。従って「華鮮労務対策委の4,595万円との差額1,753万円が朝鮮人の分ということになる。
この国家補償金の給付から逆算すると、中国人、朝鮮人の強制連行・強制労働の数量的把握が可能なのではなかろうか。

表1 強制連行された中国人の産業別・配置数

産 業 別	事業場数	配置人員	同構成比
土 建 業	発電所建設	13	6,076 人 11.9%
	飛行場 //	8	3,428 6.7
	鉄道港湾 //	6	1,575 3.1
	地下工場 //	6	2,148 4.2
	工場 //	1	580 1.1
	鉄道除雪	2	666 1.3
小 計		36	14,473 28.3
鉱 山 業	石炭採掘	42	17,433 34.1
	銅 鉱 //	9	4,382 8.6
	水銀鉱 //	7	3,077 6.0
	鉄 鉱 //	6	1,397 2.7
	其他鉱石 //	5	999 2.0
	精 錬	1	132 0.3
小 計		70	27,420 53.6
造 船		4	1,210 2.4
港 湾 荷 役		25	8,073 15.8
合 計		135	51,176 100.0

『外務省報告書』第1分冊(p. 27~28)より作成。なお、事業場間の移動を含む延人数。

表5 「石門臨時俘虜収容所」の出所後の行き先
(1941.8~1943.11)

行き先	人数	同構成比
「満州国」		%
本溪湖炭鉱	2,290 人	
東辺道開発	1,000	
満州炭鉱	2,620	
撫順炭鉱	2,748	
昭和製鋼所	300	
小計	8,958	55.0
井徑豊正炭鉱(河北省)	1,598	9.8
対日供出	564	3.6
就職	350	
帰農	913	
死亡	2,055	12.6
その他	1,838	
合計	16,276	100.0

表2 強制連行された中国人の地域別配置数

地 域	事業場数	配 置 数	同構成比
北 海 道	58	19,631 人	38.4%
東 北	9	4,008	7.8
関 東	7	3,505	6.8
中 部	25	10,188	19.9
近 畿	7	2,708	5.3
中 国	5	1,332	2.6
四 国	1	678	1.3
九 州	23	9,126	17.8
合 計	135	51,176	100.0

『外務省報告書』第1分冊(p. 28~29)より作成。
なお事業場間の移動を含む延人数。

表3 強制連行された中国人の死亡状況

内 訳	死亡数	構成比
移入時船中死亡	564 人	8.3%
本邦上陸後、事業場到着前死亡 (途中死亡の小計)	248 (812)	3.6 (11.9)
事業場到着後、3ヶ月以内死亡	2,282	33.4
同 上 3ヶ月以後死亡 (事業場内死亡の小計)	3,717 (5,999)	54.4 (87.8)
送還時、事業場出発後、乗船前死亡	10	
残留中死亡	9	
(集団送還後死亡の小計)	(19)	(0.3)
合 計	6,830	100.0

『外務省報告書』第2分冊(p. 18~19)より作成。なお、死亡
数6,830人は実移入数38,935人に対し17.5%に相当する。

表4 花岡事件のB C級裁判判決

被告人(所属)	判決	確認
福田金五郎(鹿島)	絞首刑	終身刑
河野正敏(鹿島)	終身刑	終身刑
伊勢知得(鹿島)	絞首刑	40年
柴田三郎(鹿島)	無罪	
清水正夫(鹿島)	絞首刑	終身刑
高久兼広(鹿島)	無罪	
三浦太一郎(警察)	20年	19年8月半
後藤建蔵(警察)	20年	19年9月半
元井英資(鹿島組)	無罪	

出典：『B C級戦犯横浜裁判資料』不二出版、
1985年。一部の伏せ字は他の資料から復元。

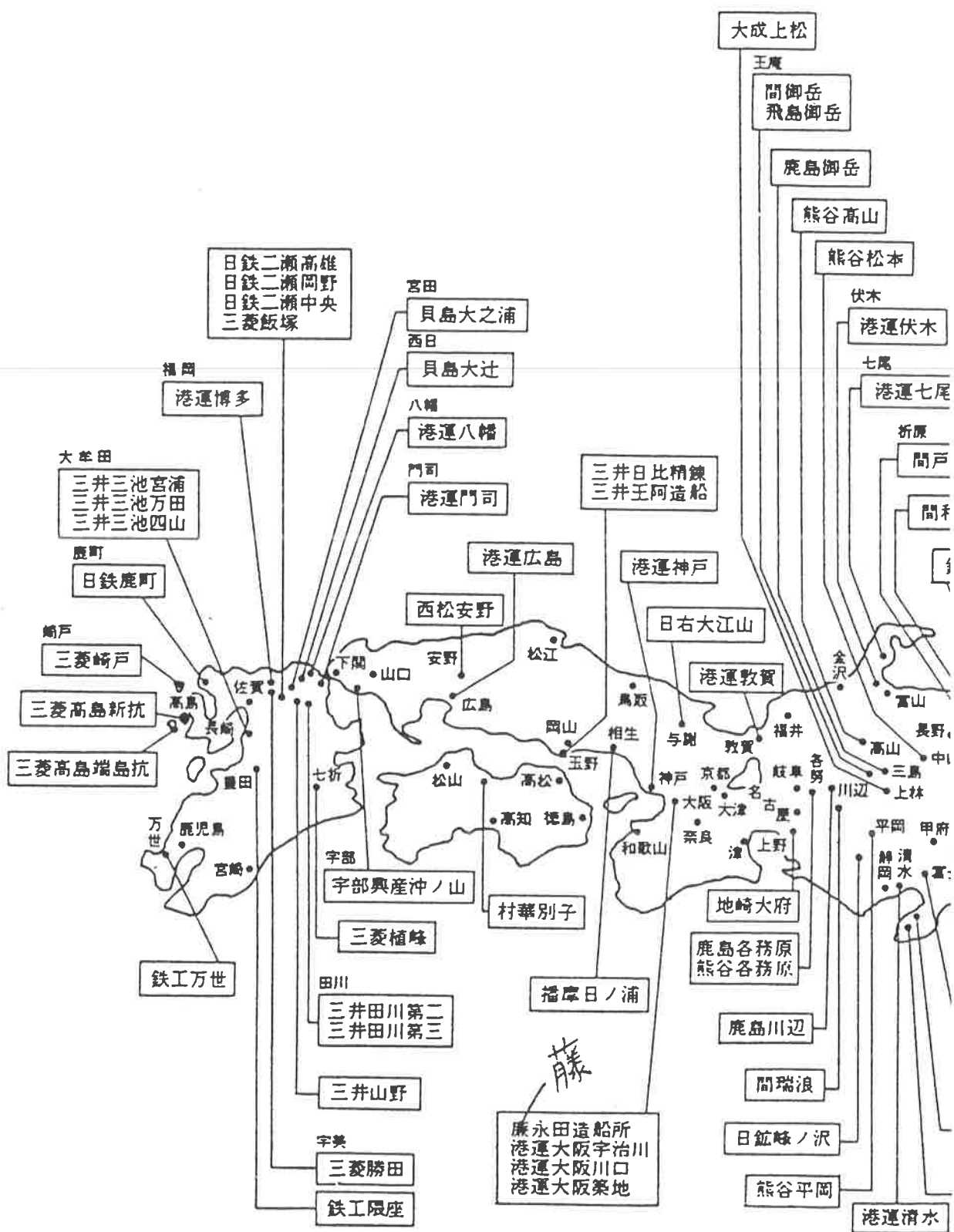
表6 中国人使役企業別、政府補償額

会 社 名	事業場数	中国 人 使 役 数	政府 補 償 額
1 地 崎 組	11	1,741 人 4.5%	3,443,502 円 6.1%
2 川 口 組	6	2,660 6.8	4,319,889 7.6
3 土 屋 組	5	900 2.3	1,828,525 3.2
4 菅 原 組	4	784 2.0	1,629,435 2.9
5 荒 井 組	3	573 1.5	1,190,783 2.1
6 伊 藤 組	2	499 1.3	803,397 1.4
7 瀬 崎 組	1	299 0.8	603,380 1.1
8 鉄道工業	7	1,608 4.1	2,803,745 4.9
9 鹿 島 組	5	1,888 4.8	3,461,544 6.1
10 鉄道建設工業	2	西松組ニ包含	
11 間 組	5	1,172 3.0	2,775,887 4.9
12 飛 島 組	3	584 1.5	1,291,256 2.3
13 大成建設	1	299 0.8	644,374 1.1
14 西 松 組	1	543 1.4	757,151 1.3
15 熊 谷 組	7	1,705 4.4	2,872,958 5.1
(土建計)	(63)	(15,253) (39.2)	(28,425,826) (50.1)
16 野村鉱業	1	195 0.5	1,247,818 2.2
17 明治鉱業	1	200 0.5	92,322 0.2
18 北海道炭鉄汽船	4	1,311 3.4	4,500,871 7.9
19 井華鉱業	3	1,194 3.1	86,888 0.2

20 日本鉱業	3	1,305	3.4	2,264,685	4.0
21 日鉄鉱業	7	1,793	4.6	2,179,222	3.8
22 同和鉱業	2	498	1.3	672,269	1.2
23 古河鉱業	1	257	0.7	28,615	0.0
24 戦線鉱業	1	200	0.5	53,990	0.1
25 宇久須鉱業	1	199	0.5	73,212	0.1
26 日本冶金工業	1	200	0.5	771,000	1.4
27 宇部興産	1	291	0.7	28,599	0.0
28 貝島炭鉄	2	499	1.3	267,226	0.5
29 三菱工業	9	2,709	7.0	2,869,060	5.1
30 三井鉱山 (鉱山計)	10 (47)	5,517 (16,368)	14.2 (42.0)	7,745,206 (22,880,983)	13.7 (40.3)
31 三井造船	1	133	0.3	—	
32 播磨造船	1	490	1.3	—	
33 藤永田造船	1	161	0.4	78,220	0.1
34 東日本造船 (造船計)	1 (4)	431 (1,215)	1.1 (3.1)	— (78,220)	— (0.1)
35 港運業会	21	6,099	15.7	5,340,445	9.4
総 計	135	38,935	100.0	56,725,474	100.0

出所：『外務省報告書』第三分冊(59~61頁)より作成。なお、合計欄の数字が
違っているところがあるが、原典のままとした。

中国人が強制連行された全国135の事業所



第7回朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会・全体集会

<<特別アピール>> 旧日本軍による性奴隷(「慰安婦」)被害者、沈美子さん

<沈美子(シムミジャ)さんの紹介>

・1924年2月4日、黄海道生まれ

・大韓民国京畿道城南市在住

*沈美子さんの証言資料「朝顔の花が美しいので刺繍しました」(別紙)参照

{沈美子さんの<<私の要求>>} }

1. 謝罪は口頭ではなく、内閣総理大臣の名での「謝罪文」を被害者各人に手渡すこと。
1. 補償は、「民間基金」方式ではなく、国家賠償金として被害者各人に一日でも早く渡すこと
1. 引き続き、真相究明のための調査活動を徹底的にすること。
1. 被害者の肉体的、精神的治療、リハビリテーションを実施すること。
1. こうした過ちを2度と繰り返さないために、教科書への史実の記載やアジア各国の犠牲者への追悼事業を積極的に推進し広く日本国民に戦争の加害意識を認識させるよう努めること

'96.5.18.朝日

強制連行を考え 7月に交流集会

岐阜市で

情報提供呼びかけ

全国から研究者らが参加

岐阜市で七月に、全国から研究者や市民団体が集まって「朝鮮人・中国人強制連行を考える全国交流集会」が開かれる。今年で七回目になるこの催しが県内で開かれるのは初めて。県内でも戦前、戦時中、強制連行された朝鮮人は約一万五千人にのぼるとの報告もある。開催を前に、市民らが実行委員会をつくり、受け入れ準備や調査を進めている。同時にパネルやビデオで調査結果を報告する「強制連行展きふ'96」も計画、参加や情報の提供を呼びかけている。



七月の開催に向けて、集会や展示の内容について話し合う「朝鮮人・中国人強制連行を考える全国交流集会」実行委員会のメンバーら。岐阜市神田町の円徳寺で

実行委をつくったのは岐

阜市や中津川市、瑞浪市などの会社員や主婦、教師ら約四十人。戦後五十年にちなんで昨年、「50年展きふ」など県内各地であった催しに携わったメンバーが中心だ。

県朝鮮人強制連行真相調

た。委員長には、多治見市在住で二十年前から在日朝鮮人の人権問題に取り組んでいる寺尾光身名古屋工業大学教授が就任した。メンバーはこれまでに実際に連れてこられた在日朝鮮人の証言を聞く会をした。同調査団事務局長の加藤明さん(六三)の案内で、瑞

査団が昨年明らかにした調

査によると、強制連行された約一万五千人の朝鮮人は、各務原飛行場や加茂郡八百津町の丸山ダム、多治見市や瑞浪市などでの地下壕(ごう)の建設、吉城郡神岡町の神岡鉱山での労働などに従事させられた。大

浪市に残っている地下壕を見学したりしている。

全国集会は七月二十七日から二日間、岐阜市金町の市文化センターで開く。約三百人が集まる予定だ。初日は、各地のグループが強制連行の実態調査結果などを報告する。二日目には瑞浪市や可児市に残っている

阪府や愛知県、神奈川県に次ぐ規模だったという。

一九九〇年に始まった全国集会は、大阪府や名古屋などで開催されてきた。強制連行者が多かった県内でもぜひ開催を昨秋、話が持ち上がった。全国集会に毎年参加している中津川市の会社員下野義輔さん(四三)が窓口になり、各地のグループと連絡を取り合った。

「朝鮮人・中国人強制連行を考える全国交流集会実行委員会」を先月つくった。可児市の地下壕建設に使われたトロロコノのレールなども展示する予定だ。

実行委では、資料の提供を呼びかけている。また、会場代やパネル作りに二百万円ほどかかるため、カン

地下壕の見学も計画している。

実行委では全国集会に先立ち、七月二十一日から「強制連行展きふ'96」を開く。これまで調べたことを、パネルや資料など二百点近くで紹介する。強制連行があった場所を集めたガイドマップやビデオを作

朝鮮人・中国人強制連行を考える全国交流集会。名古屋市内で朝鮮人強制連行問題を調べている「ピットナム(ハングルで血と汗の意味)の会」が全国に呼びかけて始まった。これまでは

首相に強制連行の調査続行を求める要請文を送った。強制連行された人々の名簿「俘虜(ふりよ)名簿」を公開したりした。従軍慰安婦問題にも取り組んでいる。

問い合わせは実行委の林公子さん(〇五七五二二一四七六六)へ。

『生きていて良かった・・・』

永松鉱山（山形県大蔵村）に強制連行された人たちを韓国に訪ねて

山形 ハングル学習会 佐藤光康

山形県にはかつて、たくさんの鉱山があった。

山形県内の朝鮮人の人数は、1930年435人、1940年1101人、1945年11月1日6284人、1950年1152人となっており、少なくとも5000人以上の朝鮮人が山形県内各地で働いていたと思われる。（総務庁統計局図書館 マイクロフィルム 資料より）

山形県大蔵村に、昭和36年に廃坑となった永松鉱山がある。

今はゴーストタウンとなった永松鉱山は、最盛期は江戸時代の元禄の頃言われ、産出量では日本の3本指に入っていた。

明治に入ると、古河市兵衛の経営するところとなり、精錬所や選鉱場が次々とつくられ、近代的な鉱山に生まれ変わった。

戦争中、永松鉱山には500人～600人くらいの朝鮮人が働いていたと言われているが、最初に「強制連行」で朝鮮人が入ったのは次の記録の通りである。

昭和15年（1940）9月

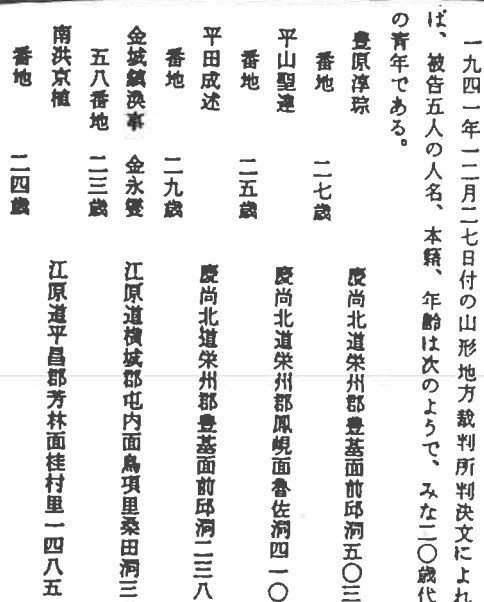
「労働不足のため、半島労務者49名の移住を行ない、以後縁故募集、家族呼び寄せなどをなし、日鮮協力増産に務む。」（「東北鉱山風土記」）

1975年東北地方朝鮮人強制連行真相調査団山形班（班長－山田昭次／当時立教大助教授）が結成され調査が行なわれた。その調査に参加された佐久間昇先生が、その調査を中心に後に『太平洋戦争下山形県における朝鮮人労働者の強制連行をめぐって』という論文にまとめられた。山形県内における朝鮮人強制連行の全体像を把握できる貴重な労作となっている。

その中に『特殊紛争事件』として、次のような事件が紹介されている。

「山形県最上郡大蔵村所在古河合名会社永松鉱業所における移住朝鮮人労働者平山聖利外28名は、12月1日午前8時頃賃金値上げ問題に発端し事務所に押しかけ、全員帰鮮するをもって賃金を精算せられたしと要求しこりたるが、言語不解のため労務係の説得を理解し得ずもっぱらに激昂しついに棍棒、薪、火鉢などを持ち「ヤレヤレ」等と怒号しつつ暴行を逞しくし、内地人労務係2名及び之を鎮撫せんとする請願巡査にたいし障害を加え

いろいろと聞き取りを続けているうちに、その『特殊紛争事件』は山形地方裁判所に持ち込まれ、判決が出ていることがわかった。そして、ついにその判決文が見つかった。



一、被告人等ハ、最近朝鮮ヨリ内地ニ渡来シ、最上郡大蔵村大字南山永松番外地古河鉾業株式會社永松鉾業所ニ抗夫トシテ稼勞シ居ルモノナルトコロ、同鉾業所ニ於ケル被告人等ノ日給ハ一円八十錢ガ普通ナルニ、同僚竹山福來ノミガ一円九十五錢ヲ受ケ居ルヲ知ルヤ、之ヲ不公平ナリトシテ同鉾業所抗部係山田清七及勞務主任佐藤弥三郎ニ対シ右竹山ト同等ノ昇級方要求シタルモ、右佐藤ハ之ヲ拒絕シ、「働タノガ嫌ナラ朝鮮ニ帰レ」ト申向ケラレタルヨリ被告人等ハ之ニ憤慨シ、一同帰郷スル故賃金殘額ノ払渡ヲ為シ與レト要求シ、ソノ承諾ヲ得タルヨリ、被告人等同僚朝鮮抗夫十数名ハ昭和十六年十二月一日午前十時頃同鉾業所事務所ニ到リ、右賃金ノ払渡ヲ待受ケ居リタルモ、其ノ間長時ニ亙リタル為、被告人豊原淳琮ハ遂ニ立腹シ同事務所ニ於テ前記山田清七ニ対シ「早クセヨ。何故待タスカ」ト申向ケ、同人ノ頬ヲ殴リシタルコトニ端ヲ發シ、同所ニ於テ前記佐藤弥三郎及同鉾業所請願巡查菅代五郎等ト被告人等トノ間ニ互ニ殴リ合ヒノ亂闘ヲ為スニ至リタルガ、其ノ際被告人等ハ外数名ト共同シテ

一、被告人豊原淳琮ハ棒ヲ以テ菅巡查ノ肩ヲ殴打シ
二、被告人平山聖達ハ棒ヲ以テ同巡查ノ肩ヲ殴打シ
三、被告人平田成述ハ棒ヲ以テ佐藤弥三郎ノ頭部等ヲ殴打シ
四、被告人金永賢ハ手拳ヲ以テ同巡查ノ上唇等ヲ突キ
五、被告人南洪京植ハ手拳ヲ以テ同巡查ノ頭部ヲ殴打シ
六、因ツテ同巡查並佐藤弥三郎ニ対シ各治療三日ヲ要スル頭部打撲傷及上門齒若ハ下顎前齒打撲傷ヲ負ハシメタルモノナリ。

(以下の証拠説明省略)

判決は豊原に罰金八〇円、その他四人には罰金六〇円だった。検事は控訴し、一九四二年三月五日、山形地方裁判所刑事部は、豊原に懲役四ヵ月、その他の者には懲役三ヵ月の判決を下した。

13

戦後50年記念事業、碑文に「加害」明らかに

～大阪各地で行政交渉～

「強制連行」「苛酷な労働」「植民地支配」等盛り込ませる！

大阪府朝鮮人強制連行真相調査団、日朝韓連帯大阪連絡会議(ヨンデネット大阪)
タチソ戦跡保存の会、高槻むくげの会、貝塚・東の歴史と生活を掘りおこす会
「茨木市安威地区に戦争と平和を学ぶ公園を」茨木市民の会(準備会)

◎経過

1994年1月 大阪府、「終戦50周年記念事業」として「戦争の傷あと」にそのいわれを記した銘板を府下
30カ所に設置することを発表

3月 大阪府朝鮮人強制連行真相調査団、知事宛に要望書
加害の跡地を対象にいれる、加害責任を明確にする、被害者に対する追悼の意を記す等

4月～大阪府、対象選定と調査を開始するが、遅々として進まず

1995年3月 府議会、銘板設置場所を17カ所に計画縮小

設置の難航—
地元有力者・地権者の反対・行政の怠慢で、茨木・高槻以外の設置の目処が立たず
銘板設置が決まった茨木・高槻も碑文の文言を巡って対立

8月 茨木市側—「建設にあたっては、徴用された朝鮮人もたずさわっていた」で強行しようとする
市民団体等と交渉開始→大阪府と茨木市が文言をめぐるゲタの預け合い

20回以上の交渉をくりかえす

～その後、各地でやっと交渉がまとまり始める。以下特徴的な文言をあげる～

11月 貝塚市—「植民地支配」

12月 茨木市—「先の戦争において……アジア太平洋地域の人々に大きな惨禍と苦痛をもたらした」

「建設にあたっては、強制連行された朝鮮人が苛酷な労働に従事させられていた」

⇒「加害の歴史」、「植民地支配」、「侵略戦争」等の文言は最後まで拒否

1996年3月 予算執行の時間切れぎりぎりになって、やっと高槻市・大阪市の交渉が本格化

高槻市—「強制連行その他の手段で集められた……朝鮮人労働者が投入され、多くの死傷者がでた」

大阪市—大阪城公園「当時の植民地支配の下で強制連行などにより集められた1300人以上と言わ
れる朝鮮人青年も含まれていました」

「国籍・民族・文化等の違いを超えた相互理解と友好を深め」

生玉公園「当時の植民地支配の下で『強制連行などにより集められた朝鮮人が苛酷な労働
に従事させられた』との体験者の証言があります」

◎銘板設置実現の要因と限界

- 行政は銘板の文章等に市民団体の調査結果等を使わねばならず、地道な調査が実を結んだ
- 各地域で様々な団体・市民・教育関係者・市会議員が協力関係を密接に保ち、交渉に同席しえたこと
- 各地域での取り組みが連絡を取り合いながら、粘り強く闘われ、茨木での交渉結果が他地域にも反映したこと
←昨年の大阪での全国交流集会開催の実行委員会が大きな役割をはたす
- マスコミの注目
- 限界……

- ・「加害者扱い」されるのではないかという誤解による地元の不快感
- ・行政の本心からの反省を込めた銘文とは言い難い—8. 15村山首相談話も盛り込めず
外交に配慮しての決着、日本人の運動として行政に加害を認させたのか？

◎銘板設置による効果と今後の取り組み～茨木市の例～

- 保存公開運動 茨木市—保存公開を求める会の結成、6月議会で4人の市会議員が当局に質問
- 教育への活用 茨木市—行政の手で強制連行を前面に扱ったビデオを作成、義務制の学校に配布
小学校副読本への記載

(文責：塚崎昌之)

報告：新潟県内における朝鮮人・中国人の強制連行の調査－現状と課題

新潟県と731部隊足跡調査委員会
事務局 木村 昭 雄

1 はじめに

新潟県における731部隊の足跡調査を第1次の調査段階として、これを継続しながら第2次の調査段階として、新潟県における捕虜収容所、朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働の史実解明に取り組んでいる。

調査の主題に関しては、当該地域においては研究者（個人）、市民グループによって関係する史実の解明が取り組まれているが、個々に取り組まれているがゆえにその制約も大きい。この点をカバーするために、全県的なネットワークを作りが目指され、情報の交換、共同調査等を進めるために「戦争責任・戦後補償問題新潟県連絡会」が組織されて主題に関する作業が進められている。

2 主題に関する現状

主題に関する県内の史実の概要は次のようになっている。

捕虜収容所	7ヶ所（9事業所）	3,060人
朝鮮人	15ヶ所（28事業所）	2,281人以上
中国人	4ヶ所（6事業所）	1,472人

そのような史実は、「新潟県警察史」、「新潟県史」、「新潟県終戦処理の記録」等に記載されているが、その精度となると疑問点も多くある。

なによりも大きな問題は、そのような史実が「戦後50年」において県、関係市町村において、上越市を例外として黙視されたことにある。これは意図的であったとさえいえる。

佐渡金山における朝鮮人の強制連行の史実を、数度に及ぶ韓国訪問によって被強制連行者を呼ぶ市民集会を開催し、国民年金受給の対県、政府交渉に取り組んでいる先進的な市民グループもあるが、現状の取り組みの多くはその史実の解明に勢力が注がれている。

主題にかかわる史実の現時点での解明事項は、その場所（事業所）、人数に関わることが主であるが、そこでの労務状況、賃金の支払、死亡者数等は明らかになっていない。このために私たちの調査もそのことに重点をおいて進められている。

これまでの調査結果と取り組みを概括すると次のようになる。

（1）現地調査、聞き取り中心の調査で判明した新たな史実

- ①新たな強制連行の事業所、人数
- ②希有な例としての農家に寄宿しての農業労働
- ③「米国戦略爆撃調査団報告書」にない地下壕

（2）パネル展の開催

・1995年8月 ・1996年8月8日～13日

（3）小冊子の刊行（調査結果）

（4）県に対する関係資料の公開要請

3 おわりに

主題にかかわる史実は県下全域にわたっているために、取り組みに難渋を強いられていることから、次のようなことが今後の課題としてあげられる。

- （1）調査の全県的なネットワーク作りをより強固に作り上げること
- （2）関係市町村、企業に対し、資料公開をはじめとし、史実解明の機関を設置させること
- （3）関係市町村史、社史に史実の記載を要請すること

第7回朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会

<<旧日本軍による性奴隷（「慰安婦」）問題>>分科会

（司会・進行）旧日本軍による性的被害女性を支える会＝伊藤啓子・小野政美
（460名古屋市中区新栄町2－3 名古屋YWCA, TEL 052-961-7707, FAX 052-961-7719）

①被害女性の証言（証言者＝沈美子シムミジャさん）と質疑応答
<沈美子（シムミジャ）さんの紹介>

・1924年2月4日、黄海道生まれ

・大韓民国京畿道城南市在住

*沈美子さんの証言資料「朝顔の花が美しいので刺繍しました」（別紙）参照

{沈美子さんの<<私の要求>>} }

1. 謝罪は口頭ではなく、内閣総理大臣の名での「謝罪文」を被害者各人に手渡すこと。
1. 補償は、「民間基金」方式ではなく、国家賠償金として被害者各人に一日でも早く渡すこと
1. 引き続き、真相究明のための調査活動を徹底的にすること。
1. 被害者の肉体的、精神的治療、リハビリテーションを実施すること。
1. こうした過ちを2度と繰り返さないために、教科書への史実の記載やアジア各国の犠牲者への追悼事業を積極的に推進し、広く日本国民に戦争の加害意識を認識させるよう努めること

②基調提案<旧日本軍による性奴隷（「慰安婦」）

問題—国連人権委員会・クマラスアミ報告書採択決議と最近の状況、運動の課題>

1996. 7. 27 旧日本軍による性的被害女性を支える会・小野 政美

<<基調提案の基本的立場>>

* 日本政府に被害者への公式謝罪と真相究明、名誉回復と国家による個人賠償を要求する立場

* 日本政府の進める公式謝罪と国家による個人賠償拒否するための「国民基金」反対の立場

<<国連人権委員会・クマラスアミ報告書採択と最近の状況、運動の課題>> * 別紙資料参照

1. 国連人権委員会での採択をめぐる—討議と採決と「留意」と—（添付資料参照）

（1）クマラスアミ報告書の意義と人権委員会での採択＝ジュネーブ報告

（2）報告書・勧告と採択決議における「留意」表現の評価＝決議原文資料参照

2. 日本政府の態度と「国民基金」の破産状況—新聞記事・資料等参照

（1）日本政府の対応＝決議強制力なし、2 国間条約で解決済み、個人補償せず、法的責任否定

（2）「国民基金」の破産状況＝三木さん抗議辞任、募金状況、首相「お詫び文」の件ほか

3. 被害当事者の現在＋被害当事者・各国政府の変化

（1）5つの被害者団体の受け取り拒否宣言＝宣言資料・記事等参照

（2）各国の被害当事者と各国の現在の状況＋アジア連帯会議

4. 運動の課題と今後の取り組み—憲法98条＝国際法遵守、立法措置、国家補償の実現等

（1）「国際協議会」の成立と国際的・国内的運動の展開＝5/14東京宣言

（2）「応じよ！国連勧告」署名運動、国会議員への働きかけ、立法運動等

（3）「心に刻む会」等によるこの夏の全国各地での証言・「国民基金」抗議集会

（4）「調査会」法案を、本岡議員らが議員立法として参議院に提案

（5）「奥野・板垣両議員への6. 1 2 共同抗議声明」

（6）被害当事者による「国民基金」受け取り拒否と日本政府への抗議運動

③討論…証言者＝被害当事者（沈美子さん）の意見を踏まえた討論にしたいと思います。

* 参加者の報告的発言もぜひお願いします！*ジュネーブ人権委員会から *調査・裁判・支援運動の現場から（韓国・フィリピン・中国・在日・台湾・インドネシア・マレーシア・グアムほか*国内・国際NGOネットワークから *被害者の具体的支援運動から等、さまざまな立場・現場から

松代大本営と中高校生

松代大本営平和祈念館建設実行委員会 峯村 勉

- 一 21世紀に何を残すか、生徒とともに考え行動する ―――はじめに
戦後50年を経過し、間もなく21世紀を迎えようとしています。

わたしたちは次代に何を残さなければならないか、と考えるときに、平和と緑の地球と水だという人があり、三つの「み」＝みち（自然や文化遺産や生活を破壊して走る高速道に代表される自動車道ではなく、人々の生活に密着した昔ながらの路です）とみどりとみずという人があり、平和と環境と民主主義だという人があり、……。結局は、①「ゆるぎない平和」 ②「青い地球の保全」 ③「20世紀に人類が学びとった民主主義の確立」になろうかと思えます。

- ・これを、地域と生活に根ざして
- ・生徒たちとともに
- ・「具体的な活動の場を与えられれば、今の中学生も、行動するエネルギーを十分に発揮できるし、また、非行・登校拒否・いじめなどの教育課題が山積しているが、大胆に生徒に人類がかかえる課題を提起し、社会認識を高めていくならば、これが非行等を克服していく道を切り開くだろう。」

二 高校で生まれ変わる

- ・中学時代、特殊学級生だったM君、「不登校」だったT君、いじめられっ子のI君
- ・郷土研究班の「松代大本営研究」との出会い

学童疎開の掘り起こしの研究、松代大本営地下壕のガイド活動



《地下壕内で見学者に説明するI君》

- ・自分が変わる
「家で母親父親が弟と比較しなくなった。」
- ・生き方を見つける
「弱い人間こそを大事にすることを学んだ僕は福祉の仕事に」
「みんなで建てた平和祈念館で僕の作ったチョコレートを」
「世界の人に食

べて貰っても大丈夫な寿司屋に。」

- ・父母が変わる
松代大本営平和祈念館建設を目指して、子どもとともに活動するそして、学校を動かす

三 行動する高校生

1) ながの高校生

セミナーの誕生

- ・自分たちで作る学校！ やってみない？
- ・Peace School in Nagano
第1回“性教育Seminar”
第2回“東南アジアを訪れて”
- ・知って、感じて、学んで、

表現するためのミニ誌発行。



《強制連行中国人の証言を聞く高校生》

2) 平和・平等班、10年ぶりの復活（長野吉田高校）

- ・ポスターを張りまくる
- ・50年前の吉田高校（上水内農学校）——学徒動員の事実
- ・「アウシュビッツ」講演会 ・人権問題を考える高校生の集い
- ・強制連行の聞き取り調査

3) 強制連行中国人の調査で訪中

- ・目的 日本侵略の事実を受け止めてくる
しっかりおじいさんたちの話を聞いてくる（おじいさんたちにとってはこの聞き取りが最後かも）

中国の古い歴史を学んでくる

中国の子どもたちとしっかり心を結んでくる

見る・聞く・触れる、五感を120%使ってくる

- ・調査 「おじいさんの心の中の時計はあの時のまま止まっている」

50年前の記憶の鮮明さに衝撃

真実を後世に伝えていく必要

- ・交流 ホテルを訪問してくれた滄州市の高校生たち

言葉が通じない——カタコトの英語でなんとか折り紙の交流

開放的で明るい中国の高校生たち

- ・見学 「万里の長城」は日本人料金で

「天安門広場」と「故宮博物館」

「盧溝橋」と「中国人民抗日戦争記念館」

- ・研究継続

信濃町での中国人・朝鮮人の強制労働のフィールドワーク

学校祭での発表

テーマ 発電所と朝鮮人労働

- ◎王泊ダム爆発事故記事 →1934年(昭和9)8月ダイナマイト詰め込み中の爆発で25名即死(日本人11・朝鮮人14)負傷者8名(日本人2・朝鮮人6)の事故。
そのうち地元労働者は死亡1、負傷2のみ(日本人労働者の出身地は県外)
◎遭難者の実態から→なぜ、地元の労働者が少ないか。(なぜ出稼ぎか)
なぜ、朝鮮人労働者が。

(聞き取りの中から)

- 1、地元の死亡者は大工職人→堰堤の型枠をつくった軽作業。木型小屋に飛んできた岩石にあたって死亡した。
- 2、「われわれは御百姓だから土方仕事はしない」という生業意識(プライド)があり、土木の賃労働に村人はほとんど参加しなかった。
- 3、土方(どくた)という呼び方は町方(まちかた=町人)・地方(じかた=薩)の社会意識を背景として明治以降作られた造語ではないか。朝鮮人労働(朝鮮人差別)の背景には土木基幹産業を低位にみる日本社会の序列観があるのではないか。

(カリキュラム1=生徒用)抄

◎王泊ダム爆発事故記事

1934年(昭和9)8月ダイナマイト詰め込み中の爆発で25名即死(日本人11・朝鮮人14)、負傷者8名(日本人2・朝鮮人6)。この事故から何を受け止めればいいのか、遭難者の実態を正確にとらえよう。

このダム工事には約1200人の朝鮮人労働者がいただろうと言われています。遭難者の割合からも当時多くの朝鮮人労働者が土木工事に従事していました。また、日本人遭難者の住所をみると地元中野村の人はわずか3人で、それも飛んできた岩石で死亡した人とけが2人です。このことは当時、土木工事に地元の人が多くは働いていないことを示します。地元の証言で「“土方”の仕事はふうが悪い、いうことじゃったですの」とどこの現場でも聞くことができます。『わたしらは御百姓なのだ』という明治(江戸)時代の差別観念とつながっているようです。私たちはいま、当たり前のように利用している道路や鉄道、電力、水道などの土木事業がどのような背景で建設されたのか、特にその労働を担った人びとの歴史を中心に、しっかりとみつめなおす必要があります。

なぜ、日本のいたるところに朝鮮人労働があるのか。当時、「われわれは御百姓だから土方仕事はしない」という身分制の意識が強く、土木の仕事で賃金を得ることを「恥」と思う社会意識がありました。そのために、土木工事の労働者は決定的に不足

していました。明治政府は北海道開拓に囚人を動員し、民間の建設会社・下請けは出稼ぎ労働者と朝鮮人の募集で労働力を補充したのが現実です。土木作業を低位にみることは日本の社会構造から始まった差別意識です。「朝鮮人差別」の背景は日本社会の構造に原因があったということを考えてみましょう。

(カリキュラム2＝授業者補充用) 抄

質問1) 大正頃の朝鮮人労働者は職業を選べなかったのか。このころから「強制連行」だったのか。

☆朝鮮人労働者が日本で働きだした時期は、1910年(明治43年)の韓国併合以前にすでに始まっています。教案でもふれたように不足する建設労働者を国内の出稼ぎと朝鮮人労働者で補うという構造そのものは戦後に至るまで変わっていません。

質問2) 朝鮮人蔑視の背景を土木作業につなげると、現在の土木作業員にも蔑視観を拡大することにならないか。配慮するためにはどういう言い方をすればよいか。

☆最近では例えば「運ちゃん」と呼ばれることを「タクシー(バス・トラック)乗務員」がきっぱりと拒否するように、「どかた」という呼び方には蔑視が含まれているという反省があって「土木作業員」「建設労働者」などの言い方が定着してきました。(もちろん、蔑視観を払拭しなければ労働者が集まらないという現代資本主義の御都合主義でもあります)(中略)「土方」という社会意識の言葉は残っていますから、言葉の注意を与えただけではその注意は特殊性を強調したことにしかならないという危険性があります。生徒は「やはりそうか(土方は下か)」としかとらえません。授業者が「ここで私たちは《土方仕事》が何であったかを厳しくとらえなおしてみる必要がある。百姓が身分制にとりすがって、一方的に土方を低い労働とみなしたことは不合理ではないのか。日本人は汚れた仕事・危険な仕事・きつい仕事に手を出さず、社会建設の最も重要な先端労働を朝鮮人に押し付けて、さらに差別を拡大したということは、恥ずかしい歴史ではないのか。」ということを毅然と語り、「土方」という言葉がもつ差別の意味を生徒がはっきりと知ること。「歴史を事実にとって正しく伝えること」このこと以外に差別の拡大を防ぐ方法はありません。

◎課題として

- 1、朝鮮人労働が始まった背景を、日本人の身分制社会意識による労働者不足ととらえてよいか。
- 2、「労働序列」という差別構造を想定し、「朝鮮人差別」の起源を説明してよいか。
- 3、「土方」という言葉の発生はいつのことか。
- 4、日本人の「出稼ぎ労働」を時代的・系統的に説明すること。
- 5、明治以降、近・現代に差別が変質・強化したことを整理する。
- 6、その他

奈良県吉野郡野迫川村・立里鉱山での朝鮮人強制連行被連行者の聞き取り調査 奈良・発掘する会

会では北海道の金山の連行後、朝鮮人労働者が転属させられ野迫川村の銅山に強制連行させられた史実の発掘を行い、被連行者リスト（北海道開拓記念館所蔵）から聞き取り調査を実施した。

調査経過

一九三七年八月、日本は戦争遂行のため産金法を制定、五か年計画を決定し金産出を推進。労働力を枯渇した住友鴻之舞鉱山では朝鮮人労働者の連行を決定、四〇年一〇月から四二年九月まで、計二五八九人を就労させた。ところが戦局が兵器資材、弾丸、砲丸などに使われる銅資源の消費が急増、同鉱山に強制労働を課せられていた朝鮮人労働者の大半は四三年四月には各地の鉱山（吉野郡野迫川村の金屋淵鉱業所、花岡鉱山、足尾銅山、別子銅山など六鉱山）に転属させられ、当地の金屋淵鉱業所について会では地元での聞き取り調査を中心に史実発掘をこの間実施してきた。被連行者の連行時の居住地は京畿道、忠清南道、忠清北道、慶尚北道の4道にまたがっているが、京畿道江華島に集中していることから、江華島にある役場を中心に生存者の有無を確認するための調査を95年10月に依頼、役場の数は9面庁に及んだ。7面庁から返答を受け、うち5面庁から生存者の報を受けた。

歴史的背景と調査結果

1 連行地・金屋淵鉱業所での生活 地元での調査活動は、和歌山県橋本市、野迫川村、奈良市で計9人（男子6人、女子3人—いずれも日本人）から証言をえた。調査が始まるまでの時点では、強制連行された地が吉野郡野迫川村のどの地であるかすら判明していなかった。立里鉱山は住友鉱業傘下の会社金屋淵鉱業所が採掘する銅山であり、野迫川村のこの銅山は、かつては近畿で有数の銅山だったことも判明した。当時立里には聞き取りでは約500人の労働者が銅の採掘に従事、多くは妻帯者だったが、朝鮮人労働者は単身者のみ、との証言をえている。

韓国での聞き取りで不明な点が徐々に明らかになってきた。

① 野迫川村立里にある立里鉱山は隣接地である紫園（しおん）で採掘した銅をより分ける選鉱所があり、その場所で就労した朝鮮人労働者もいた。聞き取りで金 晩さんが語った「工場でけがをした」という証言は、選鉱所での作業をさすこともわかってきた。

② 証言者4人いずれも逃亡した。労働環境の厳しさと同時に朝鮮人の抵抗の強さを痛感した。

（参考資料 日本政府が韓国政府に提供した強制連行名簿の奈良県分にその記述があった（文書名「勤第六九二號 昭和二十一年十一月二十九日 奈良縣教育民生部長 厚生省勤労局長殿 朝鮮人労働者に関する調査の件」）。「退所事由、終戦後帰国者二十二名ヲ除キ殆ンド逃亡セリ」とあり、逃亡者が相次いだことをあげている。雇い入れた強制連行された朝鮮人は「昭和十八年 50」の割り当てが実際は「四九」とあり、「昭和十九年」は「五〇」に対して「四六」であったと記録されている。「昭和十八」「十九」年を合計すると九五五人になり、六九人が逃亡したことになる。逃亡者は膨大な数である。ただし、同じ奈良県の資料では（第一號表）では、四三年が六三人で、四四年〇であり、数字のうえで食い違いをみせている。九五人の説が高いと考えられる）

2 未払い賃金について 証言で課題となったのは戦時賠償問題である未払い賃金の問題である。証言者一人は「強制的に5円の貯金を毎月させられた」としたが、他の人も同様である。強制連行された朝鮮人労働者の処遇は、監禁、暴力による強制労働であり（具体的な証言として羅昌燮さんの証言をあげた）、一応契約による賃金も支払われていたが、種々の名目で天引きされていた。戦

後（解放後）、全国の各企業に対して、強制連行された朝鮮人労働者が在日朝鮮人連盟などの団体を中心とした未払い賃金返還の要求がなされた。田中寛治さんの教授で、文書として「未払金、逃亡者ノ殆ノ未払金ト同時に貸金ノ未整理ノ儘ナリシガ二十一年六月在日朝鮮人聯盟奈良縣本部ニ未払金（預積立金退職金手当等）一括移牒セリ」とあり、企業側からすれば未払い金はすべて解決したことになる。ただし4人の証言者は未払い金は解放後五〇年経っても解決していないことは事実である。今後の発掘はこの奈良県文書にある在日朝鮮人聯盟奈良縣本部どのように処遇されたのかという追跡調査とともに、他の住友系の鉱山ではどうした戦時賠償がなされたかを調べてみる必要がある。

3 慰安所について 慰安所は軍慰安所と企業慰安所があるが、立里は企業慰安所にあたる。地元での調査では、日本人の元坑夫（現在86歳）は「朝鮮人坑夫には利用券が月に一回ほど支給されていた」との証言など、慰安所が存在、日本人女性がいいたことはわかっていた。

われわれは国策として採掘された主要鉱山ではそうした慰安所は一般化していた一例ではないかとみている。ただし、どのような規模なのか、経営の実態などで地元調査ではつかめなかった。今回の現地調査で判明したとは、慰安所は立里鉱山にも設置されており、利用については日本人も証言しているように利用券が配付されていたことが再確認できた。立里銅山の場合は企業が労働者を慰撫するために許可した慰安所であり、貸座敷の業者が勝手に慰安所を開いたのではなく、軍の管理下にある企業の要請を受けたものと考えられる。当地に関して痛苦の半生を送った日本女性の証言はない。

4 どのように連行され、また解放を迎えたのか 証言の一つとして羅昌燮さんの証言で、「面で50人、道で250人集められ、（朝鮮半島全体で）釜山には3000人が集められた。そこから四国に行くもの、北海道に行くものと分けられた。九州に上陸して汽車で北海道へ行った」とある。3000人という数は、膨大である。いかにして戦時労働力をかき集めたのか。どうしたシステムが築かれていたのか。なお不明な点がある。今後の発掘が必要である。ただこうした発掘は過去のことを明るみに出すだけではない。戦時下の戦時動員体制がいまのシステム社会に移行した礎だとする説がとなえられており、実にシステム化された現代社会を考えるうえでも、植民地労働力を強制動員した体制は今後も発掘する必要があるだろう。

4人の証言者とも逃亡している。逃亡したあと日本の飯場などで働いてお金をためて自力で韓国に帰国しているのである。1945年9月1日、厚生・内務両省の関係局（厚生省の勤労局や内務省の警保局など）が「朝鮮人集団移入労務者等ノ緊急措置ノ件」をだしており、強制連行された朝鮮人労働者、徴用工は優先的に輸送を求められた。この指示により、たとえば敗戦後（解放後）現地にとどまっていた天理の柳本飛行場での被強制連行者が9月中旬、下関から釜山へと帰国していったのだが、金屋淵鉱業所の場合はどうか。何よりもいま求められるのは日本人の当事者（当時企業で就労していた人、とりわけ管理者の側からの証言が求められている。

5 その他の課題 以下、箇条書きにあげる。① 強制連行された人はどうした社会階層の人たちだったのか。韓国社会での階層構造と被連行者とが何か共通したものがあるのか。つまり、大変貧しい階層が狙われたとか、どんな支配の体制を貫徹して連行を行われたのか。日帝がシステム化した強制連行とはどういうものだったかという点の論及をさらに追求する。② 強制連行された人が解放後、韓国社会でどうした生活を送ってきたのか。韓国社会ではどうした歴史認識が築かれてきたのかの把握。③ 奈良県でどのように受けとめられ、どうしたのか。無視されてきたのか。

テーマ 中部地方での朝鮮人強制連行

～全国地図作成の一歩として～

竹内康人 (静岡県朝鮮人強制連行を記録する会)

1 はじめに

1996. 12 月 発表

1990年代にはいり、全国各地で市民グループにより、調査保存の活動がすすめられてきた。以下、1990年代に作成された報告書を中心に中部地方での強制連行の状況についてみていきた。ここでは中部地方の連行地図と連行先の一覧(概略)を提示したい。

2 中部地方での連行状況

a. 史資料

- ・中央協和会「移入朝鮮人労働者状況調査」(1942)
- ・厚生省報告書(1946) 等々 名簿
- ・外務省報告書(中国人) のほか 事業場報告書 — 朝鮮人労働者について いろいろある
- ・他資料(特高月報、社会運動の状況 他)
- ・現地調査報告レポート

b. 連行現場

- ・軍需工場
- ・鋳山
- ・港湾・運輸
- ・農業・林業
- ・発電工事
- ・軍事基地(飛行場他)
- ・軍需工場建設
- ・地下施設建設(地下工場、地下軍施設)
- ・他土木(道路、鉄道等)

c. 各地の状況

- ・愛知 ① 軍需工場(三菱、中島、海軍、陸軍 他) ② 軍飛行場 ③ 地下工場 ④ 朝鮮人兵士
- ・岐阜 ① 地下工場(三菱、川崎、陸軍、海軍 他) ② 鋳山(神岡 他) ③ 発電工事(日産、神岡) ④ 基地(各務原)
- ・三重 ① 軍需工場(四日市) ② 基地(鈴鹿、鳥羽) ③ 地下工場(鈴鹿) ④ 鋳山(紀州)
- ・長野 ① 地下施設(松代、松本、上田 他) ② 発電工事(三岳、平岡、信濃川 他) ③ 鋳山(鉄、炭) ④ 軍需工場(昭電 他) ⑤ 飛行場
- ・富山 ① 軍需工場(不二越、三菱、昭電、日本曹達 他) ② 発電(庄川、黒部、佐藤工業) ③ 港湾 ④ 農業報国隊
- ・石川 ① 鋳山(尾小屋) ② 地下施設(三菱、中島、海軍) ③ 飛行場(小松)
- ・静岡 ① 鋳山(伊豆、金、明はく石、天竜(金)) ② 発電(大井川、富士川) ③ 軍需工場(日野金、東京麻糸、清水地区) ④ 地下施設(中島 他) ⑤ 飛行場 ⑥ 「慰安婦」(静岡)

3 おわりに

全国交流会のネットワーク活動のひとつとして、強制連行・強制労働の全国地図を作成していくことはできないか。戦争責任を考え、歴史認識を変えていくための基礎資料として。

(例) 静岡の場合(2.c)

表1 静岡県への朝鮮人強制連行① (土木建設現場への動員者はここには示されていない)

連行企業名	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	連行者数
河津鉱山(日本鉱業)		107	58	73				238
持越鉱山(中外鉱業)				49				49
縄地鉱山 *		41						41
土肥鉱山		79	114	90	50	31		364
湯ヶ島鉱山					33			33
戦線鉱業・仁和鉱山						98	388	486
宇久須鉱山						75	413	488
久根鉱山(古河鉱業)		30	41	112	50	129	96	458
峰之沢鉱山(日本鉱業)		50	84	46	94	157	40	471
西松組(富士川発電) *		545 (400)(145)						545
大倉土木(富士川発電) *		591 (300)(150)(141)						591
飛鳥組(富士川発電) *		255						255
間組(久野脇発電)		797	402	397	131		7	1734
大倉土木(久野脇発電)			187	275	73			535
大倉土木(日本坂トンネル)				218	140	69		427
運輸省熱海地方施設部				1	4	4	2	11
日軽金 *				以下不明				不明
鈴与商店 *		119			以下不明			119
清水港運						74		74
黒崎窯業(清水)						74	39	113
豊年製油(清水)							42	42
日本鋼管(清水)							8	8
日通静岡						47		47
日通浜松							37	37
鈴木織機							118	118
東京麻糸沼津	45	50	174	200		302		771
共立水産工業							20	20
土屋組						30		30
中村組						263	153	416
年度別集計	745	1823	1201	1461	575	1353	1363	8521

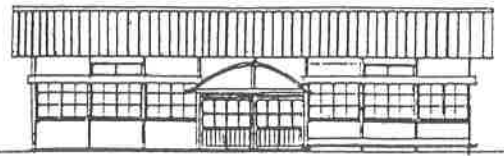
- ・【典拠】、厚生省勤労局「朝鮮人労務者に関する調査」・中央協和会「移入朝鮮人労務者状況調査」(*印の分)
- ・厚生省調査の数は名簿から連行年月を再集計したものをを用いている。
- ・調査に挿入されている一覧表のうち湯ヶ島・日通浜松・土肥・峰之沢・中村組・土屋組等の欄の数値は訂正した。
- ・中央協和会調査の数は割当数から推定して年度別にふりわけてある。
- ・軍施設・軍工場・地下施設等の建設に大量動員された朝鮮人については不明であり、表2を参照のこと。

マツシロ
(仮称) もうひとつの歴史館・松代

建設実行委員会 千葉事務局

〒263 千葉市稲毛区小仲台町2-6-1-606黒崎方

TEL/FAX 043-276-0715 郵便振替 00150-2-1899



「慰安所」として使われた建物。現在は解体して保管中

私たちは、長野市松代町に残っていた、かつて「慰安所」として使われた建物を保存しようと、一九九一年六月に実行委員会を発足させ、同年、建物解体しました。しほなにといふ

以来五年、資材を保管する一方、この建物を、これから生きる世代にむけて歴史を語る現物資料として残し、「慰安婦」問題や強制連行問題などを考えるきっかけを手渡す資料館として再生させたいと考え、活動を続けてきました。

さてこのほど、ついに移築・復元のための土地約八〇坪を、松代町の象山地下壕の入口近くに確保しました。

象山地下壕は松代町内にある三つの地下壕の一つで、年間を通して内部が公開されている壕です。ここ数年は、一年間に約一〇万人の見学者が訪れており、「家」を移築し、私たちの目指す資料館として復元するには、このうえない立地です。

「慰安婦」問題、植民地支配、強制連行など、時代の闇に葬られ、あるいは意図的に隠されてきた「もう一つの歴史」を多くの人たちに伝え、それらを教訓にどのような未来を作っていけばいいかを考えるきっかけとなるような資料館を目指します。

(1) 「もうひとつの歴史館・松代」がめざすもの

アジア・太平洋戦争末期、敗色濃厚となった日本政府・軍部が、「本土決戦」と天皇制護持を目的に、強制連行した朝鮮の人々などを過酷な条件で働かせて作り上げた松代大本営。その工事現場の近くでは、朝鮮の女性たちが「慰安婦」とされ、「性」を蹂躪されていた。いわば松代大本営は、日本の近代史における矛盾や、朝鮮に対する植民地支配と民族差別、女性への暴力といった問題を同時に私たちに語りかける歴史の証言者としての意味を持っている。

その地下壕跡を、全国から年間一〇万人近い人々が訪れている。しかし、わずかな範囲の公開や数枚の掲示板だけでは、「マツシロ」が持つ歴史的な意義を十分に伝えきれてはいない。そこで、地下壕の入り口近くに、松代町内でかつて「慰安所」として使われた建物を復元して、各種の資料展示のできる「歴史館」を作ることにより、松代大本営が語りかける意味を多くの人々に知ってもらい、「歴史」の教訓を踏まえてどのような未来を築いていったらいいか、ともに考えるきっかけを作っていく。

現在、韓国・朝鮮、中国などアジア諸国の人々と私たち日本人が持つ歴史認識のギャップの大きさが交流の見えない壁になっていることもあり、こうし

た歴史館づくりを通して、アジアの人々との歴史認識の溝を縮め、相互理解を深めていく出発点にもしたい。

なお、観覧対象者として想定するのは、全国や海外から集まる大本営の見学者（特に次代を担う若い人たち、中・高校生等）である。

1 「もう一つの歴史」と「未来へのメッセージ」を提示する

これまでの「歴史」というものは、常に政府や権力に近い人たちの手によって作られ、広められてきた「物語」が多かった。例えば、戦前には、植民地・朝鮮をはじめアジア諸国の人たちが日本の侵略によって被った苦痛や被害の事実は無視し、日本側のみ都合の良い歴史観を広め、「皇国史観」と呼ばれる形で徹底した教育を行ったことは周知の事実である（戦後もそうした歴史認識が十分に克服されなかった結果、現在もなお私たち日本人の意識の中に、アジアの人々がなめた苦痛に対する真摯な反省や謝罪の念は著しく欠如している）。一方、「性」という観点からみても、常に男性中心の歴史観が流布されてきたといえることができる。

このような既成の「物語」に対して、時代の闇に葬られ、あるいは意図的に隠されてきた「もう一つの歴史」である植民地支配や強制連行、「慰安婦」制度などの問題を多くの人たちに伝え、それらを教訓にアジアの人たちと理解し合い、共生できる未来をどのように作っていけばいいか、私たちなりのメッセージを提示する。

具体的な展示においては、「マツシロ」の持つ歴史的な意味と背景を近代史や女性史の流れの中で理解できるようにしながら、それが現代の日韓・日朝関係、「性」の問題などと、どうつながり、どのような教訓を私たちに投げかけているのかを伝えていく。

2 わかりやすく学び、情報を得られる場

復元した「慰安所」、松代大本営に関するビデオ、パネル展示などを通して、見る人がわかりやすく学べるように工夫する。また、より深く知りたい人のために様々な情報を提供できるようにする。

3 交流の場

歴史の教訓を通してよりよい未来を考えていくきっかけとしての歴史館は、交流の場としての機能も持つ事が望ましい。日韓、日朝間の交流、地元の人と他県の人たちとの交流をはじめ、様々なレベルでの交流が可能なスペースを設ける。地元には優先的に開放する。

4 歴史教育に関連する地域活動の拠点

開館後は、歴史教育に関連する地域活動の拠点としての役割を継続して担っていく。具体的な活動計画は開館後の検討課題だが、専門の研究員等を配置し、「マツシロ」に関わるシンポジウムの開催、継続した事実調査、各学校・公共施設への資料提供や「出前講座」等、多彩な活動が考えられる。

(2) 建設内容

1 場所

長野県長野市松代町西条の象山・恵明寺口近くの民有地

2 外観・構造

敷地面積 二六五・一三平方メートル（約八〇坪）
木造平屋建て（屋根はカラー鉄板）
間口一四・五メートル、奥行き九・二メートル
延べ床面積約一三三平方メートル

▼大正時代に繊維工場の娯楽場であった建物のイメージを、そのまま生かして建築する。本来、この建物は、「慰安所」として特別に設計されたというようなものではないが、歴史的な「モノ」を忠実に復元するという意味と、解体前のこの建物を知っている人にも違和感を持たせないために、元のイメージのまま建築する。そうすることにより、松代という地域の風景との調和性も高くなる。ただし、資材は古いため、骨組の部分は基本的に新しい木材を使い、外部に見える部分に元の資材を活用する。

▼内部は、「慰安所」として使われた部屋（八畳間）二つを完全復元し、その他には間仕切りして展示室、研修室、ビデオコーナー、会議室などに使える多目的スペース、事務室、トイレ（車椅子対応）などを設ける。

▼建物正面には、犠牲者への鎮魂の意味も含め、周囲に「アンネのバラ」や季節の花を植えることを考える。また、関係者の車一、二台が止まれる駐車スペースを確保する。

3 展示内容

1 = 常設展示

▼「慰安所」として使われた部屋の復元

▼背景説明（多目的スペースの一部を使用）

開館時には、「なぜ『慰安婦』の人たちが松代へ連れてこられたのか」「松代大本営と強制連行とは何か」について、松代大本営の内部写真や、当時の関係者の写真、工事図面等、視覚的な要素をふんだんに利用しつつ、パネル展示方式で当時の過酷な労働、強制連行、犠牲者の実態及び「慰安婦」問題の概略を解説する。

小型ビデオ・モニターを設置し、関係者の証言ビデオなどを上映する。

*常設展示は、開館後、年次計画でさらに資料、展示物等を増やし、充実させていく。日本と韓国・朝鮮の関係史や女性史、松代及び長野県の郷土史など多角的な視点から「マツシロ」がどう見えるのかということも伝えていく。また、日本の植民地支配が戦後（解放後）の朝鮮半島の分断に与えた影響、日韓・日朝間での依然とした歴史認識の隔たり、韓国などの反日感情をはじめ、現代の売買春ツアーや性差別の現状など、「松代」が投げかける多様な問題点が決して過去のことでないことを示し、よりよい未来への展望をともに考えていくような展示にする。

2 = 企画展示・情報提供コーナー（多目的スペースを使用）

▼企画展示

資料館サイドで企画するものだけでなく、地元にも開放し、優先的に利用してもらう。

▼情報提供コーナー

展示を見てより深く知りたくなった人のために以下のようなものを置く。

・関連書籍（日本近代史、朝鮮史、女性史、郷土史。歴史のみならず特に朝鮮文化の紹介、日本文化との比較などもできるように）

・関連ビデオソフト（モニターも設置）

・音楽関連ソフト（戦前・戦後の日本、朝鮮・韓国の音楽テープ、伝統楽器等）

・資料（関連する専門資料、日本各地に点在する強制連行や「慰安所」の跡の紹介、その他に戦前や戦後の教科書等）

・情報検索用パソコン

*松代大本営や歴史に直接関連するものだけでなく、朝鮮・韓国の風土、文化を深く知ったり、日本文化との比較もできるような素材を置く。開館後、年次計画で各ソフトを充実させていく。

3 = 交流スペース機能

多目的スペースは、常設展示以外のコーナーはできる限り可動式にし、必要な場合は間仕切りを開放して、小会議や、海外から来た人たちと交流できるスペースとしても活用する。地元、出資者、賛同人には優先的に使用できるよう配慮する。

4 = 物販コーナー（入り口脇）

記念館サイドで作った資料集などを主に販売。その他にも、松代大本営関連の地図、ビデオ、関連グッズ等を売る。これも開館後に順次、充実させていく。

(3) オープンまでの計画

一九九六年四月 建設費用三〇〇〇万円を目標額に募金活動を開始する

一九九七年四月 着工目標

一九九七年十月 完成目標

一九九八年一月 オープン目標

「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国集会」岐阜大会

＜釜戸の地下壕へようこそ＞

第四分科会・地下壕調査交流会と

フィールドワークのご案内

●期 日・7月27日（土）の行動予定

●移 動・全体会終了後、第五分科会へ参加される方は岐阜駅へ移動し、名古屋
経由中央線～釜戸駅で下車（案内2名）

＜東海道本線＞	＜中央線＞
・岐阜駅発 16時40分（豊橋）	・名古屋発 17時14分（中津川）
16時57分（豊橋）	17時40分（中津川）
17時10分（豊橋）	18時10分（中津川）
17時27分（豊橋）	18時40分（中津川）
・名古屋駅着後、中央線7・8番 ホームへ移動する	・名古屋～釜戸間、約58分の予定 ・出迎え、案内あり

＜岐阜駅～釜戸駅乗車運賃 ￥1420＞

●目的地・岐阜県瑞浪市釜戸町中大島 旅館「水月館」0572(63)2018・3640

●旅館・玄関にて受付（加藤 明）・部屋割りへ移動～宿泊費 ￥9000
・入浴・夕食後、分科会へ

●分科会・「地下工場建設工事と強制連行」の研究交流会（19時30分～21時30分）

・目的～(1)強制連行に関連して、各地の地下軍事施設の概要に迫る
調査や現状を交流する

(2)その保存運動の進め方と課題

・司 会～瑞浪日朝友好協会会長 安藤秋義

・提 案～ 梁 弘洵（可児市在住）

＜テーマ＞

私が明世の地下壕を掘った

与語 潮（明世地下壕の利用を考える会）予定

〈テーマ〉

明世の地下壕と私

・ 交 流～各地からの報告、提案を検討する

※終了後、釜戸・明世の地下壕に関する調査・解説資料を配布（加藤 明）

●期 日・7月28日（日）の行動予定

●朝 食・7時～7時40分の間（見学の準備）

●見 学・釜戸地下壕～明世地下壕（50名二班編成）

(1)釜戸の地下壕見学

・ 旅館——現地——地下壕見学————— 釜戸郵便局駐車場

8時～徒歩10分 8時20分 見学60分 9時20分～旅館マイクロバス分乗（一班から乗車）

・ 現地案内（二班・安藤秋義 一班・加藤 明）

●化石公園（駐車場）へ移動

(2)明世の地下壕見学————— 瑞浪駅へ

・ 戸狩山 10時40分～12時 見学80分 12時30分～旅館マイクロバスで移動

・ 月吉山（化石の地下壕）の見学

・ 中国人殉難慰霊碑へ

・ 現地案内（一班・加藤武志 二班・与語 潮）

●帰 路 ● マイクロバスで瑞浪駅裏ロータリーへ 各自解散、帰路へ

(松代の地下壕工事に従事、岐阜市在住)

私が日本にきましたのは、20歳ぐらいのときでした。大阪市港区市岡というところの、小さな町工場に勤めていました。大阪に長いこと住んでいました。それから約9年ぐらい経ちますが、そのかん朝鮮に2回くらい行ったり来たりしました。最終的に日本にきたのが、1944年の7月でした。それから職を探して、福島県の相津磐梯山の裏山のほうへ、私の知人を訪ねてそこへ行きましたけれども、そこに知人がいなかったのでもうどうしようもなく、調度そこに工事現場があって、大勢が働いていましたが、そこで働くことになりました。

水力電気をおこす、水路を開くんですね。

廃水口を開く工事です。山を掘って、その土を他のところへ捨てる作業をしました。突貫工事をやりました。そこで、44年の12月近くまでそこで過ごしたわけです。

ところが、そこへいわゆる強制連行された人がいたんです。昔、いわゆるタコ部屋というものがありました。私が働いている飯場の中は自由ですね。そこには、私を含めて約20人ぐらいの労働者がいました。その飯場から100メートルくらい離れたところに、とてつもなく大きな飯場みたいなものを作って、そこに人が大勢いたんです。その中にいる人が、要するに強制連行されてきた人達でした。

どういう具合にするかという、その家の中に人を集めて外には一切出られないようにしてしまうんです。その人達を…。

その中には、食事だとか風呂場だとか、トイレもちゃんとあるんです。遊ぶ場所がその中にあったかどうか知りませんが、そこに約70名くらいいたんです。

どうようにするかという、ものすごく監督する人が厳しいんです。木刀をそれぞれ持っていて、外には出られないように、厳しく取り締まっていたわけです。最初は私はそれを知りませんでした。そういうものなのかと…。それで、そばで眺めていたら、監督の人がつかつか寄ってきて、ものすごく私に怒るんです。

私に「おまえはここでなにをしてるのか」と聞くんです。私は、「あまり多くの人が騒いでいるので、それを眺めているんだ。覗いているんだと」

これは悪い人ではないんだと、うちで働いているんだからとその場はそれで治まったんですが、私もタコ部屋のことは聞いたことはあるんですが、そういうふうの一つの場所に人を集めて外に出られないようにして…働くときだけです、外に出られるのは。

朝鮮から連れてきたわけですよ。そういうことが、一回ありました。

それから私は、松代に行くことになりました。長岡にサイという人が、私の知人の知り合いの人ですが、その人が松代に大きな工事場ができるんだ、いくらかでも働く人達をそこで募集するんだというのでその人の世話で、オオジ地区の杉本飯場というところに行きました。私が行ったのは、ちょうどお正月の前でした。一週間も経つと正月がきました。話はちょっと(涙)。話を、続けます。

私は、高田という友達と仕事をするようになりますが、松代の工事は、いわゆる大本営がそこに引っ越してくるという、もちろん後で分かりましたが、天皇陛下がそこに引っ越すという…。仕事の始まりは、1942年の11月からでした。



いろんな資材だとか、自動車の置き場だとか、どこから集めてきたのか知りませんが、山のほうに積んでありました。凍結の、寒い時期です。雪が解けて、歩くと土がペタペタついてどうしようもないような地区でした。

その年はものすごく寒かったです。杉本という飯場の、杉本さんは朝鮮人でした。世帯持ちでした。子どもが二人いました。杉本という人の弟もいました。

最初にそこへ行ってから、オオジという大きな山のトンネルを掘る下準備をしていたんです。

トンネルを掘るには入り口のところを切り取らないかんのです。最初はそういうことになって、どうしても賃金が足らんというんですね。2月頃に、朝鮮から労働者が来るということを聞いたんです。それまでは、本土の人達は、簡単な穴を掘るということを集団でしていたわけです。そして、2月の初め頃に、朝鮮から約9名が来ました。

この人達のいうことを聞くとケイショウナンドウショウメイの人で、みな農業を営んでいる人達でした。

調度この時期は農繁期でして、家で45年の農作業の準備をやっていたわけです。やっているうちに、軍か

ら係りが来て日本へ行けと…。

その当時は、いわれたら出ていかないんです。強制ですからね。国の命令ですから、どうすることもできない。いわゆる赤紙と同じですよ。それで着いてみたら松代だったというわけですよ。

話を聞いたら、「軍の人達がきていけというからしょうがないから来た」と。どこをどう通ってきたのかと尋ねたら、「プサンから船に乗って、どこか分からないところにきて、下関だか小倉だかしらないが、ここへ降りてみたら松代だった」と。汽車はどういうものかと聞いたら、普通なら人間が乗る汽車ですが、荷物を運ぶ貨車の中にその人達を入れて、しまいまでそれで…。

食事は堅い握り飯の中に、梅干しを入れたものをもって食べて。箱みたいな貨車、馬とか牛などを運ぶ、あるいは荷物を運ぶものです。なぜこんなところに連れてきたのかと聞いたら、「いま非常時だから、秘密を守るのだ」というようなことを言ったそうです。

それで松代の駅で降りて、真っ直ぐに飯場へ行ったそうです。寒いからもんぺみたいなズボン、色は白いものもあるし、黒いものもあるし…。中には作業服を着ていた人もいました。

それで履物なんかは物が足りないものですから、藁で編んだ草鞋、日本の草鞋と朝鮮の草鞋とは格好が違ふんです。朝鮮のは、寒くても非常に暖かいんですね。そういったものを履いてきたわけです。

組を分けるんですね。10人くらい。飯場頭とその人の弟と、私の友達、それぞれ20人くらいを2組に分けるんです。

2組に分けるのはなぜかという、仕事を昼番と夜番の交替にする。つまり、あそこの全体は24時間ぶっ通しで仕事をやるんです。ようするに、早く済まなければならぬということ、実に厳しいんですよ。

石松組だとか鹿島組だとか入っていて、その下に飯場を取り仕切る班長がいるんです。例えば、松田班だとか阿久根班だとか、森班だとか。下の飯場を取り仕切る人、そういった親方がいる。組から親方、親方から飯場頭の杉本のように上から縦に線がつながっているけれど、横は駄目なんです。趣味もないし遊びに行くところもないし。だから横でなにか起きていても、全然分からないんですよ。

憲兵さんや、それから監督は、一昼夜入り口のところで監督していました。その監督が、看板のところを

ぐるぐる回っているんです。工事場のところにも、行っていました。

昼番もあったり、夜番もあったり、交互に穴を掘って中に入るんですよ。今だったら機械が発達して、例えば青函トンネルも掘るし、関門トンネルも機械で掘るんですが、当時はそんな機械なんかありません。

全部いちいち穴を、機関銃みたいな機械で掘るんです。ちょうど土木作業で、コンクリートを砕く機械がありますね。

空気の圧縮でもって ものすごく激しくダダダダッとするんですよ。つまり、これで穴をあけるんです。その穴の中にのみの先、穴を開けるのみに先があって、のみの中に空気が抜けるようになっています。

それを使ってやるもんですから、うまくいったら凄くやかましいし、ほこりは出るし そういうような内容です。

高さは2・5メートル 幅も2・5メートルのものを開けるんです。そして、十二時間働くんだから。仕事を終わっては寝る。それから起きたらまた仕事。昼にいても、そこに人がいるかどうか分からないくらい実に静かです。

夜番は、昼でも寝ないかんでしょう。飯場の中は、昼の人達が仕事を終わって帰ってくるとその人達が夕御飯を食べて、その穴の中に入らないかん。そういうような式で、仕事をさせていました。

こういうことをやっていくうちに、4月頃に入って一つの事件が起きたんです。4月の18日でしたけれども、朝からダイナマイトを仕掛けるまでに、14個くらい穴を開けるんです。これが、トンネルの正面だとね。真ん中にぐっと開けるんです。真ん中に4つ開けるんです。

下の方に3つ穴を開け、横も右も左も3つ、天井も



3つ。これじゃいけないなあと思うときは間に補助的なものをあける。長さは、約2メートル×2メートルくらい長いやつを掘って、そこへダイナマイトを仕掛けるわけです。

ダイナマイトはどういうふうになっているか知っていますか。長いちょうど蒲鉾みたいなものです。

そこへ導火線、ダイナマイトにこのくらいの長さの雷管をつけるんです。そうして、蒲鉾みたいなところにこれを入れて、固めて穴の中にそっと押し込むんですよ。押し込むのは、長い棒でもってね。終いまでいって、それを入れておいてその上にまた、ダイナマイトを三つから四つくらい押し込むんです。

そのうえに藁屑やら紙屑なんかをまた、そこに押し込めるんです。そして、それを固めておくんです。それを穴を掘った順番に、一番先に火を付けるところは少し長く。2メートル以上に長く余裕があるんです。

飯場頭と強制連行してきた人達5人が、穴を掘ったその朝最初に仕事をします。一日の仕事の100%のうちの1%のトラブルが起きたわけですね。

だいたい石材を掘るときも同じことですが、カンテラという明りはご存じでしょうか。石灰、カーバイトをカンテラの中に入れて、そこに水を入れて閉めるんですね。そうするとガスが出てくるんです。カンテラの長いやつをぶら下げるわけなんですけど、一番先にガスが出るようになっていきます。そこへ火をつけるんです。すると暗くても明るいです。

いまの電気です。余分にそれを持っていなければならないんです。2つか3つです。しかし、どういう訳か飯場にはそれが1つしかなかったんです。

その1つでもって、最後の仕上げをやる。火をつけていくんだけど、導火線が長くあると火をつけるカンテラは横からこうやらないかんです。これをまともにやったものだから、導火線の火がつくと花火みたいに火がついてシューと音がするんです。吹きだすんです。その拍子にカンテラの火が消えちゃったんです。

さあ、大変です。決まった時間しかないでしょう。もう、慌てるんですね。マッチを出して擦っても穴の中だから、しかも湿っちゃってどうにもならないんです。

やっとカンテラに火を付けた時点では、かなり時間が経ったんですね。新しくカンテラに火をつけて、その後つけようとしたときに、先に火をつけたダイナマイトが爆発したんです。

そういうことも、怪我をして後から訪ねて行って聞きました。それで、杉本という飯場頭は爆発してもろに被るでしょう。この人は背中の中を砕いちゃって動けなくなりました。

もう一人は、頭を直撃したんです。大きな石が。そうしたものだから、頭が割れてしまって、そこから中の脳味噌がでてきていました。一緒にいた人も、心配しているうちに爆破したものだから、まともに顔や目やら腹やらに、蜂の巣みたいに小さな石ころや大きな石が刺さっちゃってどうにならない。

担架に乗せて、押し退けるようにして病院に担いでいきました。私は昼番でしたから、仕事へ行く段取りをしていたんです。そういうことがあったので、私は病院へ走っていったんですが、3人寝かせてあるんですが、二人は即死。一人はうなっているんです。見ると顔は蜂の巣、胸もそういう状態でした。

死んでしまった人は話もできないし、蜂の巣みたいに刺さった人は、ものは喋れるからいろいろ調べてみたらいま言ったような内容でした。

それで、いけないと思ったら直ぐに逃げて、安全な場所に避難すれば良いんだと思うでしょうが、飯場頭は仕事に対する責任があるので、全部やってしまうという考えがあるんでしょう。

1日でも早く、この工事の仕事をやらなければいけない。そういう気持ちが強すぎて、無理をしたわけです。それで飯場頭の弟は、病院へ行って労務係りに言ったんです。「うちのリーさんを、生かして返してくれ」「君達は家の兄に一体なにをやってくれたんだ。お金もろくすっぽ人並みにやってくれていないじゃないか」と。

そういうとその労務係りは「このやろう。今はどういう時代だ。なに時だと思っているのか。国家の非常時に」と言って、木刀で取っ組み合いにならんばかりの勢いだったんですが。その場は済んだんですが。

そのあとに、葬式をやりました。そうすると役場の人やら組の人やら、仲間やらみな動員で告別式をやりました。みんな泣いたんです。この人達は事故がなかった、自分の家でたんぼを耕して暮らしていたでしょうに、こんなところに来てこういう目に遭って、あんまりだと泣かない人はいなかったです。葬式を済ませて、もう一人の人は、一週間後に死にました。

私は、この人達の名前をその時には覚えていたんです。飯場頭の杉本という人の名前と、即死した人の名前、これは新井と言って、朝鮮の名前は朴トウサン、普通、新井さんと呼ぶんです。

その名前を私は頭の中に入れました。一週間たって死んだ人は青年で、まだ28歳だったと思います。

病院で生きていて、先生がお湯とかで拭くんですよ。



それが、治療でした。

大きな石がめり込んでいながら、仕事のことや飯場頭や新井さんはどうなったと心配していました。しいには、家に帰りたいと言って亡くなりました。

そういう事件があって、7月中旬頃でしたか足の指を怪我しました。それはどういうわけかと言うと、ダイナマイトを仕掛けて爆破させるんだが、ちゃんと安全な場所に避難するんです。

そうしたら、急に石の飛んでくる音がするんです。それで、足のところに当たったと思って地下足袋を脱いでみたら肉がとれて、足の白い骨が見える。大変だということで、おんぶされて病院に行きました。それで、先生になんとかしてくださいと言ったら、院長さんは「院長は切ってしまえ」というんです。

「それだけは、勘弁してください。親から貰った大切な体ですから」と、なんとか頼んでめくれた皮をつけてもらいました。あのときはヨウチンだけで、今のように贅沢なものはありません。一週間、そこにいました。

病院で院長さんから「カンさん、一人来ただけ言葉が分からないのでちょっときてくれ」と言われました。

行ってみたら、腕が曲がっている。聞いてみると、機械が何かの拍子に作動しなくなってしまった。空気の抜ける穴に腕を入れたら、機械が作動し出してピストンにやられたということでした。怪我はしょっちゅうでした。怪我をして、死ぬ状態の怪我人がしょっちゅう出ました。死んだものは運んで、死亡診断書も書かないかんし、そんなことがあって…。

もう一つは、カナデコで岩を突っ突いているうちに、トロッコに落ちればべしゃんこになる位の大きな石が落ちてきた。さいわい、金さんはわずかに外れていて助かった。まともに落ちていたら、いちころですよ。尻の皮がめくれた程度ですんだんですけど。

飯場頭の弟は、兄さんの位牌を持って義姉さんと子供と4月の終りに帰りました。その後に新しく飯場頭の人が来ましたが、これも。

私も足も治り仕事につきましたが、8月の初めに広島に爆弾が落ちたと。どんな爆弾だと聞いたら、「新しい爆弾で、威力が凄くかなりの人がやられた」ということでした。

8月13日に小さい飛行機、艦載機が低く飛んでいました。なぜ、攻撃できないんだと歯痒かった。それを見て、日本は戦争に負けるなと思いました。

14日に、明日、重大放送があるからといわれました。

戦争が終わったと聞いたら、強制連行の人達は喜んで、帰れるんだと…。一番先に強制連行の人達が、亡くなった人の位牌と荷物を持って帰りました。

イ地区やロ地区には、多くの強制連行の人がいたと聞きましたが、私には横のことは分からないんです。この人達も、みんな帰りました。

あとの人は、仕事を続けてもいいし、帰りたい人は帰ってもいいということでした。私は、道案内で長野から下関まで一緒に行ったことがありました。下関を降りたら、南から北から帰の人が押し寄せていて、人で一杯でした。

荷物を降ろす場所もない。それよりなによりパニック状態でした。船がくるのはいつのことだか分からない。それを待っているんです。福岡へ行けば、早く船に乗れると聞いたもんだから、福岡に行きました。そこに1日いて、別れて松代に帰りました。

(一部省略)

松代でなにがあったのか分かりませんが、多くの人死んだことは間違いありません。松代では、国が仕事をとり仕切り、その下に鹿島組、石松組などが入って仕事をやっているんだから…。仮に人が死んでも、埋めてしまえば国がやったんだから、いってくるところがないでしょう。

人が死んだら、市役所で証明をもらったり火葬の許可を貰うんですから。人が死んだら、トラックに乗せていくのが、どうもそれじゃあないかといった噂が一杯立ちました。

天皇陛下がそこにくるんです。凄く広くて、出来上がっていたんです。

名字がサイで名前が小さい岩、小岩という人の経験を少し話します。自分の同じ飯場で3人がロ地区の天皇陛下が入るところの仕事に行く朝から出たそうです。ところが、帰ってこない。荷物も置いたままです。どこに行こうにも、行かないんです。15日に集まらなくなって広場へ行きましたところ、この仕事を一日も早くやらなければいけないから、どこへも行ってはいけないと足留めされて、どこも行くことができない。

ところがこのサイという人のいうには、そこに行った人が帰ってこない。一度事故の現場にいったところ、だれがだれだかさっぱり分からない。

(以下省略)



《特別企画》

岐阜市文化センター小劇場

7月27日(土) 10:00~

主催:「強制連行展ぎふ'96」実行委員会

製作・監督○ピョン・ヨンジュ

1995年○韓国映画○16mm
○カラー○ドキュメンタリー○98分

ナヌムの家

アジアで女性として生きるということ-2

従軍慰安婦の今を描く映画
「ナヌムの家」を製作、監督した

ピョン・ヨンジュ
邊 永姪さん

「ナヌムの家」は本人の処女作であると同時に、韓国女性が始めて、従軍慰安婦問題をとり組んだ作品。昨年韓国で上映され、一カ月で一萬五千人を動員、日本でも山形国際ドキュメンタリー映画祭で「小川紳介賞」を受賞した。東京国際映画祭や多くの海外映画祭で招待作品として紹介されている。



「私自身が従軍慰安婦のことをあまり知らなくて彼女たちにわびたい気持ちです。それがこの映画を撮る動機です」。上映後、若い世代が共感してくれ、映画の主人公であるハルモニ(慰安婦)たちが喜んでくれたことが「一番うれしかった」と言う。

ハルモニたちは最近話題、と伝えなかった

「ナヌムの家」をみてきました。韓国の若い女性監督ピョン・ヨンジュ(1966年生まれ)のドキュメンタリーです。〈ナヌム〉は〈分かち合い〉。主人公はソウル市内で、仏教団体の支援を受けながら共同で暮らしている年寄いた6人のオモニたち。皇軍に強制され、一日何十人もの日本人の相手をさせられた「慰安婦」。

彼女たちのいきいきとした表情は、奥野・板垣妄言や「国民基金」の欺瞞を打ち砕いて余りあります。カメラは、中国・武漢に捨てられた3人の彼女たちの今もしっかり捕らえています。

まやかしの「慰労金」ではなく、人間としてあつかつてほしいという彼女たちの願いが切々と伝わってきます。

7月27日(土)10:00~ 岐阜市文化センターでの上映が決まりました。(英)

キム・スンドク 75歳



カン・ドッキョン 67歳



パク・オンニョン 76歳



重い過去を背負いながら
支えあって「いま」を生きるハルモニたち
若き女性監督が
映し出す彼女たちの心のつぶやき
語り尽くせぬ数奇な人生

ハルモニ

撮影○キム・ヨンテク 編集○ハク・コクチ
録音○イ・ヨンギル
音楽○オ・ユンスク○チョ・ヒョンヒ
製作○記録映画製作所・ホーム
配給○バンドラ ☎03-3555-3987



“Are you
trying to defile
my soul?”

TALKING BACK: Kim Sang Hee
exploded when legislator Tadashi
Itagaki added insult to injury

VICTIMS OF HISTORY

After years of denial, a debate erupts in Japan over how to atone for the brutalization of World War II “comfort women” from other Asian nations

By ANTHONY SPAETH

AT 15, KIM SANG HEE WAS FLICKED by the Japanese Imperial Army from her home in Taegu and transported to a “comfort station,” the euphemism for one of the military brothels at which more than 100,000 women—from Korea, China and other Asian nations—were forced to provide sex for Japan’s overseas soldiers during World War II. For eight years, until the war’s end in 1945, she granted her so-called comforts on command, and a half-century later is demanding a different kind of comfort in return: both compensation and an apology from a Japanese government that claims to be contrite.

But Kim, now a fragile 73, received scant satisfaction last week when Japanese Diet member Tadashi Itagaki, himself a war veteran, accused her in a face-to-face encounter in Tokyo of exaggerating her claim of being a sex slave. The unsympa-

thetic legislator, the son of a war minister whom many hold responsible for stepping up the comfort-woman program in the late 1930s, challenged her: “You weren’t paid anything in your eight years?” Retorted an angry Kim: “How can you ask someone who’s been through life and death if what she says is true or not? After you defiled my body on the battlefield, are you trying to defile my soul 50 years later? I was never paid anything!”

That exchange wound up on the pages of Japanese newspapers and on South Korean television, demonstrating anew the tortures Japan suffers—and is willing to inflict—in its ambivalent attempt to own up to its wartime past. The government has organized compensation packages for some of the former “comfort women,” money raised entirely from private sources, and the modest amounts were announced on the day of Kim’s encounter with Itagaki. Earlier on the same day, 116 legislators from the Liberal Democratic Party, the

dominant coalition partner, formed a league to criticize school textbooks that portray the army negatively, specifically calling for the deletion of all references to the comfort women. The group’s chairman, former Cabinet minister Seisuke Okuno, told a press conference that the women in question were just plain laborers in the world’s oldest profession. “The Japanese forces may have arranged to transfer them to their jobs on the war front,” suggested Okuno, “but didn’t force them to go.”

The records don’t back up Okuno; no ordinary Japanese, many of whom were dismayed by the week’s events, Pri-Minister Ryutaro Hashimoto was caught between public opinion and his conservative party. Just hours before he released details on compensation packages for comfort women, Okuno announced the formation of his group, and the timing was a message: the rightists are against government payments and, more important, any



FREED SLAVES: After capturing Myitkyina, Burma, in August 1944, American soldiers discovered this group of Korean comfort women

50

TIME, JUNE 17, 1990

イ・ユンスク 73歳



ソン・パニム 68歳



バク・トゥリ 73歳

「むりじい」される側の声に耳を

市民講座 ―「歌でつなぐアジアの心」― におもう

松井英介

“僕は納得がいきません!”、彼は言いました。

“そうですよねえ、全く理不尽なことですもの。”、私は応じました。

月に一回開かれる、県の係の方との打ち合わせの席でのことでした。

休み時間に彼の方から、「慰安婦」についてはなし始めました。

“だって、お金を稼ぐためだったのでしょう。”

“商行為”だったって言うじゃないですか・・・”

“・・・、・・・”

ここにいたって、私はやっと気が付いたのです。

彼が考えていることと、私が思っていることの内容が、正反対であることを。

彼は30歳代、仕事熱心、真面目な好感のもてる普通の男性です。

彼は私と同じように考えるだろうという思い込みが私にはあったのです。

だから、その彼の口からあのような内容の言葉が出たとき、咄嗟に私は応答できませんでした。

彼には悪意はこれっぽっちもないのです。

このような“善意”のひとびとが、歴史をつくった。今、つくりつつある。

「時代錯誤」であれ「歴史を無視した荒唐無稽」であれ、お上の「発信」するものを正しいとして、そのまま受け入れる心・・・

その心の上に歴史は創られる。この厳然たる事実を知っているつもりで、全く知らなかったのではないのか・・・

強制＝力によって他人を従わせること。むりじい。と辞書にはあります。

50年前の「むりじい」を、こんなにも長く心の奥深く塗り込めて来、今、「国民基金」と言う名の“善意”を「むりじい」する。

私たちはあまりにも長いあいだ「むりじい」する側の声ばかり聞き続けて来たのではないのでしょうか。

だから、今「むりじい」される側の生の声に耳を傾けたいのです。

歌とトーク：

歌でつなぐアジアの心

と き 7月27日(土) 18:00～

ところ 岐阜市文化センター 小劇場

声楽家 佐藤優美子

1947年 東京に生まれる。

桐朋学園演劇科卒業、同時に同大学音楽部声楽科を修了。

畑中更子に師事。演劇科声楽講師を12年勤める。

「ひとりの男とひとりの女のコンサート」で佐山陽規氏、福田進一氏、寺嶋陸也氏、大島幾雄氏と共演し、好評を得る。'94年10月30日、上野奏楽堂で「耕国民楽派」の作曲家・古川和夫氏により、阿部公房の短編小説「赤い薔」を歌とアンサンブルで再創造し、注目される。昨夏、中国のハルビンで「731部隊国際シンポジウム」のオープニングセレモニーでコンサート開催。



ピアニスト 江口純子

国立音楽大学ピアノ科卒業。三城苑子氏、長峰和子氏らに師事。元常葉短大講師、現在SBS学苑講師。クラシックばかりでなく、ポップス、シャンソンの伴奏も手掛ける守備範囲の広いピアニストである。



新美 隆

花岡事件主任弁護士。

劉 連仁のこと、花岡事件のこと、強制連行のことなど・話します。



森 正孝

映画「侵略」監督。

中国・崇山村における細菌戦被害のこと、「明らか会」のことなど・話します。

♪ 曲 目 ♪

松花江上

はるかに愛する人への歌

鳳仙花

トラジの花

太陽の旗

花



声楽家 佐藤優美子

1996年6月7日

岐阜・2001年の会 代表
松井英介
〒502 岐阜市雄略町 1
☎058-233-0384

岐阜県知事
梶原 拓様

「女性のためのアジア平和国民基金」への 募金活動等への協力に関する質問

私たちは、「慰安婦」問題に大きな関心を寄せ、さまざまな活動を行ってきました。今年7月に開催予定の「強制連行展ぎふ'96」などで、歴史の事実を次の世代に伝える努力も続けております。そのことが、アジア各国をはじめ異なった文化をもった人々との真の友好関係を築くための基礎になると考えるからです。

ところで、聞くところによれば、日本軍強制「慰安婦」に対する「女性のためのアジア平和国民基金」が暗礁に乗り上げています。

この通称「国民基金」は、1994年8月末、当初村山構想「民間募金基金」として、被害者やNGOの圧倒的反対と国連勧告を無視して強行されたものでした。

「村山構想」が見舞金支給時期として予定した昨年末時点の募金達成額は、目標の10億円に遥かに及ばない1億3000万円(12月28日「国民基金」公表)で、基金が使った広告費とはほぼ同額でした。

日本政府「国民基金」は「被害者総数は、1,000名位だろう」と曖昧に予測したようですが、昨年末のNGO情報によれば、インドネシアで16,000～17,000名の元「慰安婦」が名乗り出たといえます。フィリピンでは、被害者についてのフィリピン政府の調査はななく、日本政府の聞き取り調査もほとんどなされていません。南北朝鮮と台湾を除く他の被害国では政府の調査結果も入手できないのです。つまり、「国民基金」はどのような被害者に、いくら支払うのかすら皆目見当つかない状態に陥っていたのです。(戸塚悦郎:日本が知らない戦争責任[連載26],法学セミナー No.495, p.23, 1996年3月号,日本評論社)

そして今年一月早々村山前首相は、「慰安婦」問題の唯一現実的迅速な解決と胸を張った自らの「構想」実現のめどもたたないまま、政権を投げ出しました。

村山富市氏の後、総理に就任した橋本龍太郎氏の指揮のもとに募金は継続させられましたが、集まったのは4月末現在3億3000万円。目標額とされている10億円に遥かに及ばない状態が続いています。

今年4月19日、国連人権委員会は「慰安婦」問題に関する決議を圧倒的賛成のもとに採択しました。

この「決議」の下敷きになった同委員会特別報告者クマラスワミ氏の日本政府に対する勧告の骨子は次のようになっています。

137. 日本政府は以下を行うべきである。

- (a) 慰安所制度が国際法に違反したことを承認し、違反の法的責任を受諾すること。
- (b) 日本軍性奴隷制の被害者個人に賠償を支払うこと。
- (c) 日本政府が所持する、慰安所およびその他の関連活動に関する文書と資料を完全に公開すること。
- (d) 名乗り出た女性で、日本軍性奴隷制の女性被害者であることが立証された個人に対し、書面による公的謝罪をなすこと。
- (e) 歴史的事実を反映するように教育カリキュラムをあらためることによって、この問題についての意識を高めること。
- (f) 第二次大戦中に、慰安所への募集および収容に関わった加害者のできるだけ特定し処罰すること。(R. クマラスワミ国連報告書:日本の戦争責任資料センター, 1996年3月10日発行)

この「クマラスワミ国連報告書」は、「国民基金」についてどのように述べているでしょうか。

それは以下の通りです。

134. ...特別報告者は、「国民基金」を、「慰安婦」の非運に対する日本政府の道義的顧念の表現として作り出されたものと見る。しかし、それは、これらの女性の状況に対するいかなる法的責任をも否定する明確な意志表明であって、これは、民間から募金しようとしているところに強く反映している。... (同上書, アンダーライン:筆者)

すなわち、「クマラスワミ国連報告書」は、「国民基金」を推し進めているからといって、日本政府は国際公法上の「慰安婦」の法的請求を免れることはできないと、明確に述べているのです。

では、この「クマラスワミ国連報告書」に対して橋本内閣がとった態度はどんなものだったのでしょうか。

今年3月18日から始まった国連人権委員会の前および会期中に、日本政府は「クマラスワミ国連報告書」を国連に拒否させるために、大使クラスを動員した全面的なロビイングなど「常軌を逸した行動(国連関係者)」を計画したり、詳細な反論書を準備したりしたことが伝えられています。

しかし、日本政府のこのような大キャンペーンにもかかわらず、「クマラスワミ国連報告書」を不支持とする発言は各国政府からは全くなき、中国・韓国・朝鮮民主主義人民共和国を含む圧倒的多数の政府がこの「報告書」を歓迎したのです。(戸塚悦郎:日本が知らない戦争責任[連載29],法学セミナー No.498, p.31, 1996年6月号,日本評論社)

なお後述するように三木睦子・元首相夫人が橋本首相を訪問した際、同行した坂本義和氏(東京大学名誉教授)は、国連人権委員会での動きに関連して次のように述べています。「...これは、およそ人権を尊重する国であれば受け入れる今日の国際社会の常識にはかならない。そのことは、これに反対する日本政府の立場を支持する国が、人権委員会で一国もなかったという事実を見れば明らかである。」(5月2日付、岐阜)

国連の場における日本政府の上記のようなキャンペーンとそれに対する各国の対応の事実をひろく日本国民に知らせることが、今求められているのではないのでしょうか。

5月3日付の新聞は、「国民基金」呼びかけ人のひとり三木睦子・元首相夫人が、同基金理事長の原文兵衛・前参院議長に、辞表を提出したことを報じました。三木さんは、以前

〔質問項目〕

- ◆国連人権委員会の「慰安婦」問題に関する決議を早急に受け入れるよう、政府に求める予定について。
- ◆旧日本軍の支配下において甚大な性的被害を受けた多くの女性に関する日本政府保有文書・資料の公開が急がれるが、この点について政府に求める予定について。
- ◆また、旧日本軍の支配下において甚大な性的被害を受けた多くの女性に関する実態調査が早急になされるべきだと考えるが、この点について政府に求める予定があるか。
- ◆2人の閣僚と6人の政務次官が名前を連ねる「明るい日本」国会議員連盟の会長と事務局長が、歴史の事実を歪曲した見解を発表し、歴史教科書の記述に難癖をつけ、元「慰安婦」金相喜さんを同席・侮辱する発言をしているが、このことについて橋本首相に正す用意について。
- ◆「国民基金」は、人間の尊厳を守るためにこれを受け取らないとされている多くの被害者と、受け取るとしていて被害者の間に、残酷なクサビを打ち込むものになるが、この点に関する貴職の考えについて。
- ◆性的被害を受けた女性の多くが生活費や医療費の面で困難な状況におかれているが、彼女たちが日本政府にたいして求めているのは、国際法に違反した性的奴隷制の歴史事実を認め、書面による公的謝罪をなすこと、そして国家として一人一人への賠償を行うことである。多数の国民の反対を押し切って強行されつつある「住専」につき込まれる予定の 6850億円をみれば国家賠償の財源は十分あると考えられる。この点に関して橋本首相に正すことについて。
- ◆上述した理由から、「国民基金」による「償い金」支給は凍結されるべきだと考えるが、この点に関する貴職の考えについて。
- ◆「国民基金」は、十分な調査に元づく全体計画もないままに、一部被害者にのみ恣意的に見舞金をばらまきこうとするものであるが、どのような論拠で「国民基金」募金活動等への協力文書を、学校教育の場へ下ろしたのか。
- ◆ところで、教育基本法はその前文で、「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示し、個性豊かな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない」としているが、今回の募金協力の依頼文書の取り扱い方は、きわめて一方的、画一的、非民主的であり、教育基本法の精神に悖るものと考えられるが、この点に関する貴職の考えについて。
- ◆貴職が学校現場に配布された「国民基金」呼びかけのリーフレットには、呼びかけ人を辞任した三木睦子さんの名前がそのまま掲載されている。このことは、苦悩と熟考の末に辞任を決定された三木さんの名誉を傷つける行為であり、教育の場に間違った情報を提供したことを意味している。この件に関する貴職の考えと今後の対応について。

岐阜・2001年の会 代表
松井英介

松井英介

から政府に対し被害女性個人への国家賠償を主張してきましたが、「政府は一向に個人賠償の論議を推し進める気配がないばかりか、(橋本政権)になってからは個人補償はありえないなどと公言している」として、辞任を決めたそうです。

辞表提出後、三木さんは坂本義和氏とともに橋本首相を訪ね、被害者個人への謝罪や国家補償を改めて申し入れましたが、橋本首相は「賠償問題は法的に解決済み」とする政府見解を繰り返すばかりで、「むなしさを感じた」といいます。(5月3日付、朝日)

「国民基金」他の呼びかけ人にも追隨する動きが出たといわれ、橋本内閣の言動は国の内外から批判的になっていきます。

6月5日付各紙は、「従軍慰安婦は商行為」とする奥野誠亮元法相の見解を報じました。これは、自民党本部のなかで開かれた「明るい日本」国会議員連盟結成総会後の記者会見で、同連盟会長の見解として発表されたもので、奥野氏は、「国が強制したことはない。商行為として行われ(慰安婦は)商行為に参加した人だ」と述べました。同席した板垣正参院議員も「性的虐待のイメージを植え込む教科書の在り方はおかしい」と語りました。このような動きは、上に述べた橋本内閣の態度と連動しているとみて間違いないでしょう。

このような奥野・板垣発言に、韓国から来日中の元「慰安婦」金相喜さんは、「私は15歳で拉致連行され、日本軍の「慰安婦」にされた。私が生き証人だ」と抗議しました。その金さんを、板垣正氏は逆に「8年間1銭ももらってないのか」などと責め立てました。韓国の主要紙はこれら一連の動きを6月5日付朝刊で報道し、奥野発言や板垣発言を「妄言」と厳しく批判しました。

「国民基金」は元「慰安婦」の人々に「200万円を下らない一時金」を支給することを決めたようですが、今韓国では金額など議論する以前の問題だとして怒りの声が上がっています。

以上見たようにきわめて重大な問題点をはらんだ「国民基金」への募金依頼が岐阜県学校教育現場に下ろされてきました。

1996年5月20日付で、岐阜県本庁各課(室)長・各教育事務所長・各教育機関長教育長あてに、岐阜県教育長名で下ろされた教総第169号「国民基金」への募金活動等への協力についてなる文書がそれです。この文書には、校長、教頭、事務長など6個余の印鑑が押されており、ポスター、リーフレットと募金箱が同時に配布されました。またこの文書には、1996年5月13日付青国第118号県総務部長から教育委員会総務部あて、1995年10月11付閣外審第316号・2内閣官房内閣外政審議室長から岐阜県知事あて、さらに1995年9月28日付教総第28号原文兵衛「国民基金」理事長から野坂浩賢内閣官房長官あての各募金活動に対する協力依頼文書写が添付されていました。

私たちは、「慰安婦」問題の正しいしきも速やかな解決と、性的奴隷にされた方々の人間としての尊厳の回復を求める立場から、そのために日本政府が「クマラスワミ国連報告書」をベースにした国連人権委員会の勧告を一刻も早く受け入れ、早急に具体策を練り実施に移すことを求める立場から、以下に挙げるいくつかの点について質問いたします。

1996年6月21日(月)までに、ご回答賜りますようお願いいたします。

『沈 美子(シン・ミジャ)さんの 日本政府あて呼訴状から』

私は小学校5年のとき、日本人担任中村先生から日本地図に刺繍をしてくれと頼まれたので、朝顔の花を刺繍してあげました。

数日後、授業中に教務室に呼び出しがあって行くと、お巡りさんがいて小学校5年生にもなるものが、わが国の国花を知らないか？というので、私が桜の花ですという、なぜ日本の地図に桜の花を刺繍しないで朝顔の花を刺繍したかと聞くので、朝顔の花が美しいので刺繍したと答えました。

そしたら、君は精神思想が疑わしいと怒鳴りながら、警察署の宿直室に強引に連れて行って、無理やり強姦しよう覆いかぶさってくるので、(中略)

取調室に連れて行かれ、そこで両足に電気拷問、指の爪先に竹針を指す、真っ赤に焼いたコテで肩と首を焼くなど、あくどい惨い拷問を受け失心してしまいました。(中略)

意識を戻したときには、そこが日本九州の福岡というところだと他の「慰安婦」(韓国人)に聞かされて初めてわかりました。

(中略)

昼夜の別なく1日に20～30人、土日曜日には40～50人の軍人の相手をしなければならない“性の共同便所”たる“従軍慰安婦”・・・(後略)



沈 美子さん(写真:伊藤孝司)

呼 訴 状

— 記 —

- ◆謝罪は口頭ではなく、内閣総理大臣の名での「謝罪文」を被害者各人に手渡すこと。
- ◆補償は「生活支援金」という名目や「基金」方式ではなく、損害賠償金として被害者各人に一日でも早く渡すこと。
- ◆引き続き、真相究明のために調査活動を徹底的にすること。
- ◆被害者の肉体的・精神的治療、リハビリテーションを実施すること。
- ◆こうした過ちを二度と繰り返さないために、教科書への史実の記載やアジア各国の犠牲者への追悼事業を積極的に推進し、広く日本国民に戦争の加害責任を認識させること。

1994年7月20日

沈 美子

大韓民国

京畿道 城南市 壽井區 太平4洞

鮮京太平 APT 101棟 504號

電話(+82-342-722-2966)

賛同団体・個人 紹介 (順不同)

《賛同団体》

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会

東京都稲城市東長沼1086

むくげの会

財団法人神戸学生青年センター

兵庫県神戸市灘区山田町3 丁目1-1

静岡県の朝鮮人強制連行を記録する会

静岡 浜松市薬師寺308-26 小池善之

半田空襲と戦争を記録する会

愛知 半田市花園町3-12-12 佐藤様方

愛知県朝鮮人強制連行歴史調査班

愛知 名古屋市千種区希望が丘1-5-17高橋

高麗博物館をつくる会

東京 稲城市東長沼1086 稲城教会内

在日韓国民主女性会

東京 千代田区神田町小川町3-6-8 伸幸ビ

篠ノ井旭高校 郷土研究班

長野 長野市篠ノ井御舞川1045

NO、AWACSの会

静岡 浜松市天王町803

藻岩犠牲者の碑を維持する会

北海道 札幌市南区北ノ沢9 丁目15-22

「闇からの証言」写真展実行委員会

長野 松本市桐3-3-30 竹内 忍

在日朝鮮人運動史研究会・関東部会

千葉 柏市あけぼの4-10-7 長沢 秀

「タチソ戦跡」保存の会

大阪 高槻市塚脇1-15-7 太田 修

東海民衆センター

愛知 名古屋市金山5-2-30 レックス604

民衆運動研究所

長野 長野市中御所2-20-2

兵庫朝鮮関係研究会

兵庫 尼崎市次尾1-16-5 徐 方

外管法入管法と民族差別を撃つ全国研究 集会実行委員会

東京 江戸川区篠崎7-3-9 伊部方

旧日本軍による性的被害女性を支える会

愛知名古屋市中区新栄町2-3 名古屋YWCA

「もうひとつの歴史館・松代」建設実行委員会

千葉市川市南八幡5-11-3-301

《個人賛同》

(愛知) 大谷勝摩 亀山重光 久野綾子 鈴木 磐 中島正人 畠山重光 水谷正信 梨花美代子
角田滋子 (岡山) 藤田 武 (京都) 本田次男 葉師寺小夜子 四方 哲 小松 裕
(熊本) 浜田 拡 (広島) 伊藤一幸 (三重) 吉沢真樹 佐久間 昇 (山形) 高井文男
(滋賀) 中村忠行 (新潟) 中島弥生 (千葉) 川合伸江 黒崎裕子 (大阪) 足立龍枝 伊賀智子
伊賀正治 池田正枝 加藤 豊 久保井規夫 猪 八戒 塚崎昌之 寺元耕二 橋木 徹
平野 誠 松岡 勲 横山篤夫 (長野) 梗賀圭作 小松芳郎 (東京) 田中文江 中田 均
(奈良) 梶川 望 (福岡) 金 光烈 (兵庫) 鹿嶋節子 金 慶海 徐 元洙 徐 根植 鄭 淑示
飛田雄一 堀内 稔 (和歌山) 園部俊治 孫 春任

《岐阜の賛同団体》

岐阜ピースサイクルネットワーク 中国帰還者連絡会 ハナの会 岐阜県人権擁護協力機構
中国学術交流センター 朝鮮総連岐阜県本部 岐阜公立学校教職員組合
日朝国交正常化早期実現岐阜県100 人委員会 国際ソロプチミスト岐阜 岐教組本巣郡協議会

《岐阜の個人賛同》

中川彰男 飯沼徳昌 安西達彦 安西玲子 平井正則 熊崎善和 上坂つや子 田中潤子 小川久美
萩原英夫 佐藤久子 今井正子 西菌美恵 後藤満史 林 公子 河合祥博 栗栖庄司 富田理恵
村瀬忽一 安藤勝昭 前田暁子 棚橋正明 松井英介 中村一恵 青山栄司 岩井雄司 江崎紀代子
柏谷志郎 加藤澄夫 加藤智子 小西久美子 所 順子 半田祐二郎 日置弥之 福井啓子 藤吉まゆみ
牧村みどり 松井孝子 島尻尚子 鈴木頼恭 旧井 誠 深沢紀子 長縄幸弘 長田雅弘 野田勝彦
岡崎洋子 井上敏夫 寺尾光身 千村次生 村瀬邦子 吉田重和 古沢紀芳 赤塚俊彦 横幕国広
藤島義正 浅井昭二郎 関谷たへ子 渋谷弘司 竹本利秋 魚次龍雄 常富圭子 藤田 豊 大林恵子
本望昭弘 横尾明親 坂井牧彦 川上隆三 岩佐 孝 南 修治 市川寛一 塚田正昭 近藤英一
阪野智夫 中野 明 大阪正治 黒田 靖

◆賛同団体・個人は7月14日までの申し込み分です。